

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	生物学	講義曜日	金曜	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	立谷 麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。				
	到達目標				
	細胞の構造と機能、細胞代謝、遺伝子と遺伝、化学反応と化合物、生命を構成する基本物質などについて説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月21日	生命とは何か 生命の誕生、生命の変遷	11	7月14日	試験(生物学・後半) 解説
2	5月12日	生物は細胞からできている①	12	7月21日	生体の構成要素①
3	5月19日	生物は細胞からできている②	13	8月25日	生体の構成要素② 生体における化学反応
4	5月26日	細胞の一生と個体の成り立ち	14	9月8日	糖質と脂質の代謝 タンパク質とアミノ酸の代謝
5	6月2日	生殖によって子孫をつくる	15	9月15日	生体における恒常性の維持
6	6月9日	試験(生物学・前半) 解説	16		/
7	6月16日	遺伝と遺伝子	17		
8	6月23日	発生して体をつくる 刺激の受容と反応	18		
9	6月30日	内部環境を保つ仕組み	19		
10	7月7日	動物の行動と進化	20		

講義方法

教科書に沿ってスライドで授業を進めます。

配布するプリントに穴埋めをしてください。

マーカーペンなどで色分けすると、復習の際に見やすいかと思います。

講義で使用する機器・教材

①パソコン、プロジェクター

②配布プリント

履修上の注意事項

生物学の試験は前半と後半の2回に分けて行います。

授業の進行具合で試験日程が変更になる場合があります。

成績評価方法

①出席:2/3回以上出席すること。

②成績:試験が6割、出席点(授業態度を含む)が4割で計算し、前半と後半の平均を最終評定とします。

教科書 歯科衛生学シリーズ 生物学

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書と配布プリントをもとに学習を進めてください。

記載日 令和 5年 3月 7日

講義要項(シラバス)

年 度	令和4年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	1年	講義時間	3・4時間目		
科目名	化学	講義曜日	木曜	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	高田 雄京	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科医療の現場で患者さんの健康づくりに一助する歯科衛生士として、日常の現象を科学的に捉えて理解する習慣を身に付け、履修しなければならない専門科目や歯科医療で取り扱う様々な歯科材料及び試薬等を基本から理解するために必要な化学の基礎知識を習得することを目指す。				
	到達目標				
	歯科医療の現場で患者さんの健康づくりに一助する歯科衛生士として、日常の現象を科学的に捉えて理解する習慣を身に付け、履修しなければならない専門科目や歯科医療で取り扱う様々な歯科材料及び試薬等を基本から理解するために必要な化学の基礎知識を習得することを目指す。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月20日	物質の分類と物質の構造 原子、分子、化学結合	11		
2	4月20日	気体の性質と法則 医療及び生活への気体の応用	12		
3	4月27日	溶液の濃度(1) 溶液の濃度(2)	13		
4	4月27日	希薄溶液の性質 コロイド溶液	14		
5	5月11日	酸とアルカリ(1) 酸とアルカリ(2)	15		
6	5月11日	酸化と還元 金属の電気化学	16		
7	5月18日	有機化合物の種類 有機化合物の構造と性質	17		
8	5月18日	高分子化合物の重合反応 高分子化合物の性質	18		
9			19		
10			20		

講義方法

対面での講義を中心とし、状況によってはライブでの遠隔講義を併用することもある。

講義で使用する機器・教材

講義ノートを準備すること。また、講義資料をまとめるバインダーなどが必要。

履修上の注意事項

講義ごとに資料を配布するので、必ずファイルして保存すること。また講義内容で重要と思われる部分をメモする習慣をつけること。演習を行うので復習すること。

成績評価方法

筆記試験を行い、60点以上を合格とする。

教科書 歯科衛生学シリーズ 化学

参考書

予習復習のアドバイス

内容の理解を深めるため、復習を中心に行い、演習(計算問題など)も復習するように心がける。

記載日 令和 5年 3月19 日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	生命倫理学	講義曜日	月曜	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	徳田 幸雄	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人間観(人間とは何か?)、人生観(何のために生きるか?)、死生観(死んだらどうなるのか?)といった哲学・倫理の基礎的な知識を身につけ、現代社会が直面している倫理的問題に関心をもち、自らの倫理観を明確にする。				
	到達目標				
	医療従事者に求められる倫理観を身につけるとともに、一人の人間として自らを見つめ直す機会とする。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月24日	プラトンにおける「死の道」	11		
2	5月1日	プラトンにおける「愛の道」	12		
3	5月8日	ユダヤ教の倫理観	13		
4	5月15日	キリスト教の倫理観	14		
5	5月22日	イスラームの倫理観	15		
6	5月29日	仏教の倫理観	16		
7	6月5日	優生思想	17		
8	6月19日	人工妊娠中絶問題	18		
9			19		
10			20		

講義方法 プロジェクターでマインド・マップを投影しながら講義をすすめる。 なお、より理解が深まるように、可能な限り視聴覚資料を用いる。
講義で使用する機器・教材 配布資料
履修上の注意事項 私語を慎しみ、講義に集中すること。なお、許可がない限り講義中のスマホやタブレットの操作は禁止する。
成績評価方法 講義のなかで実施するチェック・テストおよび定期試験
教科書
参考書 講義のなかで指定する。
予習復習のアドバイス 哲学・宗教・倫理に絡む時事問題に関心を寄せること。 チェック・テストを軸に復習することをすすめる。
記載日 令和 5年3月10日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	コミュニケーション学	講義曜日	金	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	加藤雅子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	①コミュニケーションの基本である挨拶、返事が気持ちよく出来る。 ②相手との双方向のコミュニケーションを取ることで、相互理解が出来る。 ③チーム・コミュニケーション力を習得し、チームの一員として仕事を進める事が出来る。				
	到達目標				
	①相手を尊重し、受容・共感することで、良好な人間関係を講師くすることが出来る。 ②コミュニケーションに関する知識があり、相手に好感・安心感を与える言動・行動を意識的に取ることが出来る。 ③自分自身のコミュニケーションについて客観的に振り返ることが出来る。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月21日	オリエンテーション コミュニケーションの重要性	11	7月14日	苦情・クレーム対応のスキル (演習・ケーススタディ)
2	5月12日	ケア・コミュニケーションの基本的な心構え	12	7月21日	歯科スタッフの説明スキル (行動化の支援)
3	5月19日	ホスピタリティとケア・コミュニケーション(演習・実践)	13		配慮ある支援が必要な被援助者とのコミュニケーション
4	5月26日	被援助者との関係を築くコミュニケーション①(演習・実践)	14		チーム・コミュニケーション 報告・連絡・相談
5	6月2日	被援助者との関係を築くコミュニケーション②(ケーススタディ)	15		総復習・メンタルヘルス 筆記試験実施
6	6月9日	好感・安心感を高めるコミュニケーション(敬語と言葉遣い)	16		
7	6月16日	好感・安心感を高める応対表現(ケーススタディー・演習)	17		
8	6月23日	好感・安心感を高める応対表現(ロールプレイング)	18		
9	6月30日	受容と共感のコミュニケーション①(アクティブ・リスニング)	19		
10	7月7日	受容と共感のコミュニケーション②(交流分析・アサーション)	20		

講義方法

- ・個人ワーク・グループワーク、ケーススタディーなどを多く取り入れた実践中心の講義を実施する。

講義で使用する機器・教材

- ・ホワイトボード
- ・プロジェクター（HDMI）

履修上の注意事項

- ・コミュニケーションの講義の為、講義には主体性を持って参加すること。
- ・講義では、よく聴き、よく考え、よく発言し、傍観者にならないこと。

成績評価方法

- ・筆記試験：70%、授業態度：30%

教科書

- ・歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション ウイネット ・補足資料を都度配布

参考書

- ・医療従事者向けのマナー・コミュニケーション関連の本
- ・講義内で都度、案内する。

予習復習のアドバイス

- ・次回講義のテキスト該当ページをよく読み、理解しておくこと。分からないことは、講義中に必ず確認し、明確にすること。テキスト内、演習問題などは、前もって取り組んでおくこと。

記載日 令和 5年 3 月 12 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	人間発達学	講義曜日	水、木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	上遠野純子	実務経験	医療機関(リハ専門病院・大学病院) 20年、介護福祉事業所3年、作業療法士として勤務		
一般目標	人間の発達を理解することが、なぜ必要なのか？必要性を認識し、歯科衛生士の役割を認識し、適切に対応するための知識の整理・蓄積しておく。				
到達行動目標	1 小児の各時期における発達課題や発達過程を理解し、説明できる。 2 小児の各機能の発達過程を理解し、説明できる。 3 小児の状態を理解でき、説明できる。				

回数	月日	講義内容
1	9月6日	成長と発達と成熟そして発育の定義を調べ、その違いを理解する。 教科書から人間発達を学習する意義を見つけ、歯科衛生士としての役割を明確にする。
2	9月13日	発達の原則を理解する。 発育期と年齢そして発達課題を一覧表として作成する。
3	9月20日	身体発達(形態発達・生理的発達・身体発達の評価・身体的発達に関与する諸因子)を理解する。
4	11月9日	主な反射の刺激と反応を理解する。 運動機能(粗大運動)の発達の順番通りに絵を書きながら、理解する。
5	1月11日	運動機能(微細運動)と対象物の操作の順番を理解する。 認知機能(感覚－知覚－認知、知能)の発達を理解する。
6	1月25日	日常生活動作の獲得過程の発達を理解する。
7	1月25日	口腔機能と言語の発達を理解する。
8	1月31日	母子健康診断の内容で、各時期における発達を理解する。

講義方法

座学講義形式とPBL(問題を解きながら)学習

講義で使用する機器・教材

配布資料、プロジェクター、iPad

履修上の注意事項

※ 配布資料を確実に整理し、期末試験対策としてノートを工夫すること

成績評価方法

国家試験の形式で出題、問題数30問×3点＝90点。残り10点は、出席・態度点。

教科書

全国歯科衛生士教育協議会監修 『小児歯科(第2版)』 医歯薬出版株式会社

参考書

上田礼子 著：『人間発達』 医歯薬出版株式会社

予習復習のアドバイス

1. ノートの整理整頓、資料などは決して無くさない工夫をしてください。
2. 提示された問題を解いてみて、分からない時は、すぐに聞いてください。即解決すること。
3. Key wordの理解、歯科衛生との関連を考えましょう。

記載日 令和5年6月19日

講義要項(シラバス)

年 度	令和4年度		時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科		講義時間	2時間目		
科目名	英語		講義曜日	水曜	講義回数	8
			総時間数	15	単位数	1
講師名	高橋 光子		実務経験			
講義目標	一般目標					
	英文の基本的な構成要素と文法構造についての知識の習得					
	到達目標					
	英語をコミュニケーションのツールとして使えることを目指す。					
回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容	
1	4月19日	be動詞 一般動詞	11			
2	4月26日	過去形 (be動詞、一般動詞)	12			
3	5月10日	進行形 (現在形、過去形)	13			
4	5月17日	未来家	14			
5	5月24日	名刺、冠詞	15			
6	5月31日	不定詞、動名詞	16			
7	6月7日	接続詞	17			
8	6月14日	現在完了形	18			
9			19			
10			20			

講義方法

テキストを用いて、プリント等による問題をすることで理解度を確認しながら進める。

講義で使用する機器・教材

大学英語『グラマー・プラス』

履修上の注意事項

個々の英語力をブラッシュアップする為に、授業に辞書を持ち込むことを必須とする。

成績評価方法

筆記試験及び授業に対する姿勢等による総合評価とする。

教科書 大学英語『グラマー・プラス』

参考書

特に指定しない。

予習復習のアドバイス

記載日 令和 4年 3月 28日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目(15:00－16:30)		
科目名	歯科英語	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	日常の臨床で使用される歯科英語を理解し、実際に使用できるようにする。				
	到達目標				
	①歯科英単語の意味を理解し、暗記できる。 ②英語を使って患者さんと基本的なコミュニケーションがとれるようにする。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	11月2日	Unit1 電話の予約	11		
2	11月16日	Unit2 受付にて:来院時と既往症	12		
3	11月30日	Unit3 治療前の指示	13		
4	12月7日	Unit4 治療後	14		
5	12月14日	Unit5 治療の経過	15		
6	12月21日	Unit6 レントゲン撮影	16		
7	1月11日	Unit7 歯の手入れ	17		
8	1月18日	Unit8 正しい歯磨き	18		
9			19		
10			20		

講義方法

教科書に沿って進めながら、文法や単語の使用方法やニュアンスを学びます。

日本語として使用されている単語も多いので日常臨床と合わせて学びます。

歯科医院にて良く行われる一般的な会話について学びます。

講義で使用する機器・教材

教科書、プリント

履修上の注意事項

暗記が必要な単語が沢山あるため、歯科用語の予習・復習をこまめに行いましょう。

成績評価方法**教科書**

歯科英語の練習帳: 歯の健康づくりをサポートする英語表現(萌文書林)

参考書**予習復習のアドバイス**

記載日 令和 5年 3月 日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	解剖学	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標 人体を構成する器官を形態、構造、機能及び器官相互の位置関係について学び、説明できる。				
	到達目標 ・器官の系統的な分類を理解する。 ・人体の外形と構成を理解する。 ・器官の形態、構造、機能機関相互の位置関係を理解する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	5月1日	総論:解剖学の種類、人体の構成、用 1. 骨格系(1):構造、機能	11	7月10日	5. 神経系(2):末梢神経系
2	5月8日	1. 骨格系(2):体幹骨(胸郭、呼吸) 上肢骨(鎖骨と頭蓋骨の関係等)	12	8月21日	6. 呼吸器系:上気道・下気道～肺
3	5月15日	1. 骨格系(3):下肢骨(寛骨と腸骨 恥骨、坐骨の関係、骨盤の性差)	13	8月22日	7. 感覚:一般的性質、皮膚・粘膜 眼・耳
4	5月22日	2. 筋と運動(1):構造と機能 筋の形状と分類、頭部、頸部、背部の	14	8月29日	8. 泌尿器系 9. 生殖器系
5	5月29日	2. 筋と運動(2):胸部、腹部、上肢 下肢	15	9月11日	10. 内分泌系
6	6月5日	3. 消化・吸収(1):消化管の構造 口腔～食道、嚥下	16		
7	6月12日	3. 消化・吸収(2):胃～大腸、肛門 肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜後器官	17		
8	6月19日	4. 循環(1):血管系の概要(構造、 血球、組織)・心臓・動脈	18		
9	6月26日	4. 循環(2):静脈系・リンパ系 胎児の循環	19		
10	7月3日	5. 神経系(1):概要・構成 中枢神経系	20		

講義方法

教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実に行之、授業に参加すること。
授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

参考書

プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)
人体の構造と機能(全10巻縮刷版)(日本医事新報社)

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

記載日 令和5年3月25日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5 年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	組織・発生学	講義曜日	火	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標 人体を構成する最小の基本単位である細胞の構造と、その集団が一定の配列や形態をとってできた組織の構造と機能について学び、説明できる。 さらに人体と口腔の発生過程についても学び、それを説明できる。				
	到達目標 ・細胞と細胞内小器官の構造と機能を理解する。 ・組織の種類、構造と機能を理解する。 ・人体の正常発生過程と先天異常を理解する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月25 日	歯の組織と名称 ※「口腔組織学」の内容	11		
2	5月2日	細胞:細胞の構造、細胞の一生	12		
3	5月9日	組織①種類と構成、上皮組織、 支持組織、結合組織	13		
4	5月16日	組織②骨組織	14		
5	6月27日	組織③筋組織	15		
6	7月4日	組織④神経組織	16		
7	7月11日	発生①染色体と減数分裂,精子と 卵子, 受精と着床	17		
8	7月18日	発生②胚葉の形成 胎児の成長と発育	18		
9			19		
10			20		

講義方法 教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。
講義で使用する機器・教材 プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型
履修上の注意事項 解剖学・組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。 授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。
成績評価方法 試験評価80% 授業態度20%
教科書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学
参考書 カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 井上 貴央監訳(西村書店)
予習復習のアドバイス 教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。
記載日 令和5年 3月25日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度		時 期	前期		
学 科	歯科衛生学科		学 年	1年		
科目名	生理学		講義時間	3,4時間目		
			講義曜日	月曜	講義回数	15
講師名	土谷 昌広		総時間数	30	単位数	2
講義目標	一般目標					
	本科目では様々な生理機能と関連して、歯科衛生士として歯科医学を理解する上で必要な知識を身につけるだけでなく、顎口腔領域の専門家として、患者さんに対して説明できるレベルまで理解を深めることを目的とする。					
	到達目標					
	・脳をはじめとした神経系の機能について説明できる。 ・筋による運動機能について理解する。 ・消化、吸収、排泄の機序について理解する。 ・腎臓の働きと体液の恒常性について理解する。					
回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容	
1	4月24日 (月)③	生理学とは？ 機能と形態・細胞と組織	11	5月29日 (月)③	呼吸：呼吸器・内呼吸と調節 体内pHと恒常性	
2	4月24日 (月)④	遺伝子・骨格系と筋の働き 筋活動と電位	12	5月29日 (月)④	泌尿器・排尿 体液と体温の恒常性	
3	5月1日 (月)③	筋反射と調節 疲労	13	6月5日 (月)③	内分泌：ホルモンの働き 内分泌：性ホルモンについて	
4	5月1日 (月)④	胃腸の機能・消化 排便	14	6月5日 (月)④	生殖器と性周期 更年期障害	
5	5月8日 (月)③	栄養と味覚 糖代謝	15	6月12日 (月)③	確認テスト 解説	
6	5月8日 (月)④	循環：体液・血液 心臓・血圧・脈拍	16		/	
7	5月15日 (月)③	血液成分・機能 血液凝固と溶解	17			
8	5月15日 (月)④	神経系：中枢 高次機能	18			
9	5月22日 (月)③	感覚：体性感覚 特殊感覚：皮膚	19			
10	5月22日 (月)④	特殊感覚：色覚・聴覚 感覚異常	20			

講義方法

授業計画に従って、教科書を中心に進めます。また、教科書の内容に関連した事項について、Powerpoint等を使用してプレゼンテーションします。講義日程の最後にテストを行い、理解度を確認します。

講義で使用する機器・教材

教科書とスライドによる説明

履修上の注意事項

人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。
復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。

成績評価方法

平常点(30%)と定期試験成績(70%)。

教科書 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

参考書

人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学
医歯薬出版 ￥5,060(税別)

予習復習のアドバイス

人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。
復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。

記載日 令和5年 3月 10日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯の解剖学(スケッチ含む)	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子、三上眞、丹野雅仁	実務経験	笠原:医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務 三上:大学病院に歯科技工士として42年間勤務 丹野:歯科医院、大学病院に歯科技工士として通算5年間勤務、歯科技工士養成校で教員として36年間勤務		
講義目標	一般目標 永久歯および乳歯の形態、表面構造、機能と歯種の鑑別について学び、説明できることを目的とする。				
	到達目標 ①歯の名称、表示法、用語を理解し説明できる。 ②永久歯と乳歯の形態、表面構造と機能を理解し説明できる。 ③歯種の鑑別を理解し、説明できる。 ④正常な歯列と咬合を理解し、説明できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月2日	歯の概論①	11	12月18日	乳歯②(乳臼歯)
2	10月16日	歯の概論②	12	1月15日	歯の配列と咬合関係
3	10月23日	永久歯①(特徴、前歯①)	13	1月22日	異常歯
4	10月30日	永久歯②(前歯②)	14	1月26日	歯型彫刻⑤(上顎第一大臼歯①) (三上眞、丹野雅仁)
5	11月6日	永久歯③(小臼歯①)	15	1月26日	歯型彫刻⑤(上顎第一大臼歯②) (三上眞、丹野雅仁)
6	11月13日	永久歯④(小臼歯②、大臼歯①)	16	1月26日	歯型彫刻⑤(上顎第一大臼歯③) (三上眞、丹野雅仁)
7	11月17日	歯型彫刻①(上顎中切歯①) (三上眞、丹野雅仁)	17		
8	11月17日	歯型彫刻②(上顎中切歯②) (三上眞、丹野雅仁)	18		
9	11月20日	永久歯⑤(大臼歯②)	19		
10	11月27日	乳歯①(乳前歯)	20		

講義方法

教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、顎模型を用いて講義を行う。
石膏棒を削り、上顎中切歯および上顎第一大臼歯を作成する。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター(PC連動)、配布プリント、歯牙模型
歯型彫刻時に使うものは、追って連絡する。

履修上の注意事項

歯の形態を知ることは、歯の清掃指導、歯頸部のスケーリング等に関して、非常に重要である。歯の解剖学の学習量は膨大であるため、予習復習を確実にし、授業に参加すること。

成績評価方法

試験点数を70%。平常点10%。
歯型彫刻実習の配点は、20%とする。(出席点と製作物の提出点を基礎点とする)

教科書 歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔組織学」

参考書 最新歯型彫刻 理論と実際 第2版 (医歯薬出版)
基礎から学ぶ 歯の解剖 (医歯薬出版)

予習復習のアドバイス

覚えるべき専門用語が多いので、必ず事前に教科書を熟読し、授業後にも授業内容をしっかりと復習すること。

記載日 令和5年 3月25日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	口腔解剖学	講義曜日	火	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標 口腔とは消化管の始まりの部分で、食物摂取、咀嚼、嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯、歯周歯、歯周組織、舌、唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔解剖学の概要を学び、口腔の解剖について理解し、口腔を解剖学的側面から説明できる。				
	到達目標 歯・口腔とその周囲組織の構造・機能に関する理解を深め、説明できる様にする。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	12月12日	頭蓋を構成する骨②	11		
2	12月19日	頭蓋を構成する骨③ 頭頸部の筋と作用①	12		
3	1月9日	頭頸部の筋と作用②	13		
4	1月16日	顎関節	14		
5	1月23日	口腔付近に分布する脈管系① 動脈系	15		
6	1月30日	口腔付近に分布する脈管系② 静脈・リンパ系	16		
7	2月6日	口腔付近に分布する神経系① 脳神経(1)	17		
8	2月13日	口腔付近に分布する神経系② 脳神経(2) 自律神経系	18		
9			19		
10			20		

講義方法

教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

口腔解剖学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。

授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

※口腔の構成①②(口腔組織学の7, 8回目に行う予定)も、口腔解剖学のテスト範囲とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

参考書

プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部(医学書院)

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

記載日 令和5年3月25日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	口腔組織学	講義曜日	火曜	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	笠原江利子	実務経験	医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標 口腔とは、消化管の始まりの部分で、食物摂取・咀嚼・嚥下などの一連の役割がある。それらの機能を営むために、歯・歯周組織・舌・唾液腺を備えている。本科目では、歯・口腔およびその周囲組織の構造・機能に関する理解を深める。口腔組織発生学の概要を学び、歯と歯周組織の発生について理解し、それを説明できる。				
	到達目標 ・歯と歯周組織の発生過程を理解する。 ・歯と歯周組織の構造と機能を施罪する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月3日	顔面と口腔の発生①	11		
2	10月10日	顔面と口腔の発生②	12		
3	10月17日	歯と歯周組織の発生	13		
4	10月24日	歯および歯周組織の構造と機能① エナメル質	14		
5	10月31日	歯および歯周組織の構造と機能② 象牙質・セメント質	15		
6	11月7日	歯および歯周組織の構造と機能③ 歯槽骨・歯肉・歯根膜	16		
7	11月21日	口腔の構成① 口唇、頬、歯肉、口蓋	17		
8	11月28日	口腔の構成② 舌、唾液腺、咽頭 頭蓋を構成する骨①	18		
9			19		
10			20		

講義方法

教科書を中心に、スライド(パワーポイント)や配布プリント、骨格模型を用いて講義を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター(PC連動)、配布プリント、骨格標本模型

履修上の注意事項

口腔組織学は重要な授業であり、学習量は膨大であるため、予習復習を確実にを行い、授業に参加すること。
授業中の私語、携帯電話の使用、途中退出は厳禁とする。

成績評価方法

試験評価80% 授業態度20%

教科書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学

参考書

カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 井上貴央監訳(西村書店)

予習復習のアドバイス

教科書を予習したうえで授業に臨み、教科書、プリント等で復習を行うことで、知識の定着が図れる。

記載日 令和5年 3月25日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生学科	講義時間	3,4時間目		
科目名	口腔生理学	講義曜日	月曜	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	土谷 昌広	実務経験			
講義目標	一般目標				
	本科目では味覚をはじめとした口腔内の感覚、摂食運動と関連して筋収縮や運動制御、摂食嚥下の後に生体で行われる消化・吸収や排泄、さらに口腔が重要な役割を果たしている発声について学ぶ。				
	到達目標				
	・味覚をはじめとした口腔内の感覚ついて説明できる。 ・筋による運動機能と摂食に関わる顎運動について理解する。 ・食物の消化、吸収、排泄の機序ついて理解する。 ・発声や構音のしくみについて理解する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	7月3日 (月)③	歯の構造と機能 歯根膜感覚	11		
2	7月3日 (月)④	舌、粘膜などの機能 味覚・嗅覚	12		
3	7月10日 (月)③	咬合 咀嚼	13		
4	7月10日 (月)④	吸啜 摂食	14		
5	8月21日 (月)③	摂食障害と拒食症 嚥下・誤嚥	15		
6	8月21日 (月)④	発声・嘔吐 構音障害	16		
7	8月28日 (月)③	唾液：分泌と調節 口腔乾燥症	17		
8	8月28日 (月)④	確認テスト 復習	18		
9			19		
10			20		

講義方法 授業計画に従って、教科書を中心に進めます。また、教科書の内容に関連した事項について、Powerpoint等を使用してプレゼンテーションします。講義日程の最後にテストを行い、理解度を確認します。
講義で使用する機器・教材 教科書とスライドによる説明
履修上の注意事項 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。
成績評価方法 平常点(30%)と定期試験成績(70%)。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学
参考書 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版 ￥5,060(税別)
予習復習のアドバイス 人体の機能の科目で履修したことについて復習をしておくこと。 復習として配布プリントやノートを整理し、教科書の記載内容を確認すること。
記載日 令和 5年 3月 10日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	生化学・口腔生化学	講義曜日	金曜	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	立谷 麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	人体(口腔)における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体(口腔)における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。				
	到達目標				
	生体の構成要素、生体における化学反応、エネルギーの代謝、物質の代謝、酵素の種類と作用、生体における恒常性の維持、さらには、歯と歯周組織、硬組織、唾液、デンタルプラークの生化学などについて説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月6日	試験(生化学) 解説	11		
2	10月13日	歯と歯周組織の生化学	12		
3	10月20日	硬組織の生化学	13		
4	10月27日	唾液の生化学	14		
5	11月10日	プラークの生化学①	15		
6	11月24日	プラークの生化学②	16		
7	12月15日	プラークの生化学③	17		
8	1月5日	試験(口腔生化学) 解説	18		
9			19		
10			20		

講義方法

教科書に沿ってスライドで授業を進めます。

配布するプリントに穴埋めをしてください。

マーカーペンなどで色分けすると、復習の際に見やすいかと思います。

講義で使用する機器・教材

①パソコン、プロジェクター

②配布プリント

履修上の注意事項

生化学の試験と、口腔生化学の試験をそれぞれ行います。

授業の進行具合で試験日時が変更になることがあります。

成績評価方法

①出席:2/3回以上出席すること。

②成績:試験が6割、出席点(授業態度を含む)が4割で計算し、生化学と口腔生化学の平均を最終評定とします。

教科書 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝(医歯薬出版)

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書と配布プリントをもとに学習を進めてください。

記載日 令和 5年 3月 10日

講義要項(シラバス)

年 度	令和 5年度	時 期	通年	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1,2時間目		
科目名	微生物学・口腔微生物学	講義曜日	金	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	多田 浩之	実務経験			
講義目標	一般目標				
	微生物学では病原微生物の生態、微生物-宿主関係ならびに感染症を理解し、免疫学では病原微生物に対する免疫応答を理解する。				
	到達目標				
	歯科衛生士国家試験受験に必要な微生物学の基礎的な知識を身につけ、実際の臨床で遭遇する感染症ならびに免疫応答について説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	7月19日 ①	微生物の世界 病原微生物学の歴史	11	9月29日 ①	口腔微生物学:口腔の微生物 口腔微生物学:う蝕・歯内感染症
2	7月19日 ②	細菌学総論1 細菌学総論2	12	9月29日 ②	口腔微生物学:歯周病・口腔感染 化学療法1
3	8月25日 ①	細菌学各論(グラム陽性菌) 細菌学各論(グラム陰性菌)	13	10月6日 ①	化学療法2 感染対策(滅菌・消毒)
4	8月25日 ②	細菌学各論(歯周病原細菌) 細菌学各論(マイコプラズマ等)	14	10月6日 ②	口腔微生物学/化学療法/感染対策のまとめ 細菌学実習(動画)
5	9月8日 ①	ウイルス学総論 ウイルス学各論1	15	10月11日 ②	総復習講義
6	9月8日 ②	ウイルス学各論2 微生物学のまとめ	16		
7	9月15日 ①	免疫学:概論(感染と生体防御) 免疫学:自然免疫・免疫機構	17		
8	9月15日 ②	免疫学:抗原提示 免疫学:抗体	18		
9	9月22日 ①	免疫学:液性免疫 免疫学:細胞性免疫	19		
10	9月22日 ②	免疫学:アレルギー 免疫学のまとめ	20		

講義方法 講義は教科書と配布資料を中心に行い、適宜スライドを用いて理解を深める。
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター
履修上の注意事項 講義に出席して地道に学習するのが効果的である。講義内容が膨大であるため、講義内容をその都度まとめることが重要である。
成績評価方法 期末試験を中心に評価するが、平常点(出席と講義態度)も考慮する。
教科書 最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学
参考書 病気がみえる 6 免疫・膠原病・感染症(メディックメディア)
予習復習のアドバイス 高等学校の生物学に関して予め復習しておくことが望ましい。さらに教科書を予習した上で講義に臨み、毎回の講義後には教科書と配布資料を中心とした復習が必要である。
記載日 令和 5年 3月 7日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3,4時間目		
科目名	薬理学・歯科薬理学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	中村卓史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	医薬品の薬理作用を理解し、薬物を安全かつ効率的に取り扱える基本的知識を修得する。				
	到達目標				
	1. 薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序、薬物の体内動態について理解する 2. 薬物の副作用、有害事象について理解する 3. 疾患発症と治療薬の薬理作用について理解し、安全に歯科医療を行うための注意点が説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月3日	ガイダンス 薬理学総論	11	11月7日	炎症と薬 痛みと薬
2	10月3日	薬理学総論	12	11月7日	局所麻酔薬
3	10月10日	薬理学総論	13	11月14日	抗感染症薬
4	10月10日	ビタミンとホルモン	14	11月14日	消毒に使用する薬
5	10月17日	末梢神経系に作用する薬物	15	11月21日 3時間目	歯科治療で使用する薬物
6	10月17日	中枢神経系に作用する薬物 循環器系に作用する薬物	16		/
7	10月24日	腎臓に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物	17		
8	10月24日	消化器系に作用する薬物 血液に作用する薬物	18		
9	10月31日	免疫と薬 悪性腫瘍と薬	19		
10	10月31日	代謝性疾患治療薬 炎症と薬	20		

講義方法

授業では、疾患発症機構を理解するために必要な生化学および生理学の知識を確認し、疾病治療に用いられる代表的治療薬の薬理作用機序、薬物動態、薬効に影響する因子、副作用及び薬物の取り扱い・管理について説明し、薬理学に関する知識の吸収と論理的思考力の育成を目指します。

講義で使用する機器・教材

講義では、教科書を使用し、適宜、資料としてスライド素材を配布する。

履修上の注意事項

講義ノートをしっかりと作成し、知識を整理する。

成績評価方法

学期末試験(100%)によって成績を評価する。

教科書

歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学（医歯薬出版）

参考書

薬がみえる Vol. 1-4 メディックメディア 第1版

予習復習のアドバイス

事前学習として、教科書の該当ページを熟読する。
講義中に分からなかった事があれば、その日の講義の最後に質問をする。
講義ノートや配付資料を見直し、知識を整理する。

記載日 令和 5年 3月 7日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生学科	講義時間	4・5時間目		
科目名	病理・口腔病理	講義曜日	水曜	講義回数	10
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐々木 優、齋藤 悠	実務経験			
講義目標	一般目標				
	病理学は病気の原因と病気によって起きる変化について明らかにする学問である。口腔疾患における診断・治療・予防に必須な病理学的知識を習得を目標とする。				
	到達目標				
	病理学総論では全身の臓器に現れる同じ種類の疾患の総合的理解を、口腔病理学では歯と歯周組織、口腔粘膜、唾液腺、顎骨、顎関節に起こる病変を正しく理解することを目標とする。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	5月10日 4時間目	病理学序論と病因論 佐々木 優	11	6月14日 4時間目	う蝕 佐々木 優
2	5月10日 5時間目	遺伝性疾患と奇形 佐々木 優	12	6月14日 5時間目	象牙質・歯髄複合体の病態 佐々木 優
3	5月17日 4時間目	循環障害 齋藤 悠	13	6月21日 4時間目	歯周組織の病態 佐々木 優
4	5月17日 5時間目	代謝性障害と退行性病変 齋藤 悠	14	6月21日 5時間目	口腔粘膜の病変 佐々木 優
5	5月24日 4時間目	増殖と修復 齋藤 悠	15	6月28日 4時間目	口腔領域の嚢胞と腫瘍 佐々木 優
6	5月24日 5時間目	炎症と免疫異常 齋藤 悠	16	6月28日 5時間目	口腔癌 佐々木 優
7	5月31日 4時間目	腫瘍① 齋藤 悠	17	7月5日 4時間目	顎骨の病変 佐々木 優
8	5月31日 5時間目	腫瘍② 齋藤 悠	18	7月5日 5時間目	唾液腺の病変 佐々木 優
9	6月7日 4時間目	歯の発育異常 齋藤 悠	19	7月12日 4時間目	口腔領域の奇形 佐々木 優
10	6月7日 5時間目	歯の損傷と着色・付着物 齋藤 悠	20	7月12日 5時間目	口腔組織の加齢変化 佐々木 優

講義方法

スライドを使って教科書の完全理解に努める。適宜、講義時間を使って、習熟度のテストを行う。
講義内容に関する過去の国家試験問題の解説なども行う。

講義で使用する機器・教材

スライド・資料(過去の国家試験問題など)

履修上の注意事項

あらかじめ、教科書を読んで予習して、授業に臨むよう希望する。

成績評価方法

筆記試験により評価

教科書

歯科衛生学シリーズ 病理学・口腔病理学

参考書

授業の際にご紹介します。

予習復習のアドバイス

教科書を何度も通読することを勧めます。

記載日 令和5年 4月 24日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	衛生学・公衆衛生学	講義曜日	火	講義回数	15
		総時間数	30時間	単位数	2
講師名	岩倉政城	実務経験			
講義目標	一般目標				
	コロナパンデミックで体験したように、国民の暮らしと健康に被害を及ぼすあらゆる要因に立ち向かうには個々人の努力だけでできるものではありません。人類が蓄積してきた健康に関わる科学を駆使して世界と国と自治体が市民とともに健康を作り上げて行く大きな営み、その方法を学ぶのが公衆衛生です。				
	到達目標				
	人間集団の健康や不健康、疾病や障害を疫学として理解する力を身に付けます。その上で健康の保持や増進を社会集団を通じてどのように実現していくかを学びます。このような大きな視野を持った上で医療の一翼である歯科衛生を担いながら自分がどのように社会の健康に関わっていくかを考える機会となることを願っています。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月25日	総論 公衆(みんなの衛生(けんこう))	11	7月4日	精神保健 要因としてのストレス 精神科医療と地域療養システム
2	5月2日	環境と健康 地球と人間	12	7月11日	高齢者と少子化 世代間対立と介護保険制度
3	5月9日	環境汚染と人権 "4大公害"と言われた水俣病	13	7月18日	学校保健と自己の身体への自覚 保健教育と保健管理
4	5月16日	イタイイタイ病 四日市喘息と被害者運動	14	8月22日	労働衛生 産業衛生
5	5月23日	衛生指標 乳児死亡(衛生のバロメーター)	15	8月29日	国際衛生 世界の貧困格差とその克服
6	5月30日	疫学と疫学の祖 John・Snow Nightingaleと日本の疫学者たち	16		
7	6月6日	水と人間 水系伝染病 感染症と人権	17		
8	6月13日	成人病がなぜ生活習慣病に？ メタボリックシンドローム	18		
9	6月20日	母子保健・父子保健 養育支援・虐待	19		
10	6月27日	地域保健と保健所役割 自治体と地域保健センター	20		

講義方法

配布プリントを主体に教科書を用いて行う時にスライドを用いて学習の補強を行う。

15回連続の講師-学生間交換ミニレポート用紙に授業終了前に記入提出し次回に討論に使う。

プリント内に小質問を折り込みみんなで考えて記入する。

講義で使用する機器・教材

配布プリント 交換ミニレポート 教科書

スライド、ときにCDプレーヤー

履修上の注意事項

常時教科書を持参する。

配付資料に小質問があるので授業中に記入し発表し合う。

交換ミニレポートの内容を互いに発表し合いクラス討論を行う。

成績評価方法

期末の筆記試験で50%

交換ミニレポートの評価で30%

教科書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み1
保健生態学(医歯薬出版)

参考書

最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学最新版

予習復習のアドバイス

自分がこれまで生きて来た間に乳児健診や3歳児健診を受けたり、またコロナ感染して療養して来た体験がある。そうした体験を授業内容と重ね合わせて受講し、またミニレポートを記入する。

記載日 令和5年 3 月 10 日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1,2時間目		
科目名	衛生統計学	講義曜日	木曜日	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	村上任尚	実務経験			
講義目標	一般目標				
	個人及び集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。				
	到達目標				
	・健康増進・疾病予防・医療に関する保健統計を列挙し、そこから必要な情報を入手できる。 ・歯科に関連する指数について説明できる。 ・統計学的な知識および分析方法を身につけ、情報を正しく利用できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	6月8日 ①	保健情報と保健統計Ⅰ 保健情報とは・保健統計とは	11	7月13日 ①	歯科疾患の指数Ⅲ 口腔清掃状態の指数
2	6月8日 ②	保健情報と保健統計Ⅱ EBMとは	12	7月13日 ②	歯科疾患の指数Ⅳ 不正咬合と歯列不正の指数他
3	6月15日 ①	保健情報の分析手順 調査・母集団と標本抽出	13	7月20日 ①	情報の保護と倫理 情報社会の特性と問題点他
4	6月15日 ②	保健統計の方法 データの特性・記述統計・検定	14	7月20日 ②	試験直前解説(まとめ)
5	6月22日 ①	保健情報と疫学Ⅰ 疫学総論・健康障害の発生要因	15	8月24日 ①時間目	試験
6	6月22日 ②	保健情報と疫学Ⅱ 疫学の方法論・スクリーニング	16		
7	6月29日 ①	保健情報の分析演習Ⅰ データの表現Ⅰ 604	17		
8	6月29日 ②	保健情報の分析演習Ⅱ データの表現Ⅱ 604	18		
9	7月6日 ①	歯科疾患の指数Ⅰ 数量化と指数・う蝕の指数	19		
10	7月6日 ②	歯科疾患の指数Ⅱ 歯周疾患の指数	20		

講義方法 教科書を中心にスライドを使用した講義を行うとともに、コンピュータ(Excel)を用いた演習を行う。 また、随時Mentimeterなどの双方向ツールを用い、講義時間中に質疑応答を行う。
講義で使用する機器・教材 プロジェクター、コンピュータ(Excel)、配布プリント、スマートフォン(任意)
履修上の注意事項 講義内容についての質問は、原則としてメールおよび授業終了時に教室にて受け付けます。
成績評価方法 ミニレポート(20%)、試験(80%)
教科書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会のしくみ3 保健情報統計学 (医歯薬出版)
参考書 特に指定なし
予習復習のアドバイス 最新かつ正しい情報の選択や収集、そしてその利用は、国家試験対策のみならず将来の実務にも関わります。各回の講義の終わりに行うミニレポートや演習内容も含め、復習をしながら理解を深めておくことが望ましいと思われます。
記載日 令和 5年 3月 7日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	口腔衛生学	講義曜日	火曜日	講義回数	15
		総時間数	30時間	単位数	2
講師名	小関 健由	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔保健推進の重要性を患者や社会に向けて発信する歯科衛生士になるために、口腔保健・歯科医療の幅広い学問領域全体を俯瞰的に把握し、この領域の専門知識やその相互関係を理解するために必要な基本的知識・態度を身に着ける。				
	到達目標				
	・口腔保健の重要性を患者や社会に向けて説明できる。 ・口腔の疾病・障害のメカニズムと治療法の概略を説明できる。 ・各ライフステージにおける口腔管理と疾病予防法の概要を説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月3日	口腔保健概論	11	12月19日	フッ化物によるう蝕予防(2)
2	10月10日	歯・口腔の健康	12	1月9日	歯周疾患の予防
3	10月17日	歯・口腔の構造と機能(1)	13	1月16日	口臭
4	10月24日	歯・口腔の構造と機能(2)	14	1月23日	その他の疾患・異常の予防
5	10月31日	歯・口腔の付着物・沈着物(1)	15	1月30日	口腔衛生学のまとめ
6	11月7日	歯・口腔の付着物・沈着物(2)	16		/
7	11月14日	口腔疾患の疫学	17		
8	11月21日	口腔清掃	18		
9	11月28日	う蝕の予防	19		
10	12月12日	フッ化物によるう蝕予防(1)	20		

講義方法

基本的に教科書に沿って授業が進行する。質問は授業中に受け付ける。

講義で使用する機器・教材

授業に教科書は必ず持参すること。

履修上の注意事項

予習・復習は学習効率から必須ですので、しっかり取り組むこと。

成績評価方法

期末試験により、授業の理解と知識の定着を評価(80%)し、更に、出席状況、授業態度を評価する(20%)。

教科書 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学

参考書

予習復習のアドバイス

授業中に授業内容を完全に理解するために、授業前の教科書の予習により内容を把握し、さらに授業後は復習にて知識の定着を図ること。

歯科衛生士向けの専門雑誌が複数発行されているので、図書館等で目を通して、現在のトピックを把握すると、授業の深い理解に繋がると思われる。

記載日 令和5年 3月24日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科衛生士概論	講義曜日	火	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤暁子 若木まみ 他	実務経験	佐藤:歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木:歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標 歯科衛生士として求められる基本的な考え方や行動を理解し、専門職としての態度や心構えを身につける。				
	到達目標 医療人として求められる役割や、歯科衛生業務を実践するための倫理を理解する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月18日	社会から求められる医療従事者の姿とは	11	1月16日	歯科衛生過程
2	4月25日	医療従事者の健康管理	12	1月23日	災害歯科保健活動
3	5月2日	歯科衛生士としての心構え	13	1月30日	地域と健康
4	5月9日	歯科衛生士の歴史と現状	14	2月6日	歯科衛生総論 小論文
5	5月16日	歯科衛生士法と関連法規	15	2月13日	歯科衛生総論まとめ
6	6月6日	医療倫理	16		
7	7月4日	インフォームドコンセント	17		
8	7月11日	医療安全管理	18		
9	7月18日	歯科衛生業務記録	19		
10	8月29日	歯科衛生業務記録	20		

講義方法

講義、演習、グループディスカッション、小テスト

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物、ホワイトボード

履修上の注意事項

1. 歯科衛生学総論教科書を必ず持参すること
2. 配布資料は国家試験が終わるまで無くすことのないようにすること

成績評価方法

期末試験 100%

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会監修

参考書**予習復習のアドバイス**

ファイルを準備し、配布資料やノートは整理し保管しましょう。

記載日 令和 5年 4月 3日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科		講義時間	3時間目		
科目名	歯科臨床概論	講義曜日	水	講義回数	8回
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	笠原 紳	実務経験	歯科医師		
講義目標	一般目標				
	歯科診療全般について概要を説明する。歯科医療従事者の種類とかかわりの程度を理解する。				
	到達目標				
	歯科衛生士として歯科診療全般について説明できること。 歯科診療環境、診療器具、歯科医院の構成員、業務内容について説明できる。 各歯科診療分野ごとの診療対象歯科疾患、使用器具について説明できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月26日	歯科診療施設の概要・構成員	11		
2	5月10日	歯科診療の業務内容 診療項目	12		
3	5月17日	歯科診療における診査、検査	13		
4	5月24日	患者の年齢別歯科診療項目	14		
5	5月31日	成長期における診療 小児歯科、矯正歯科	15		
6	6月7日	歯科口腔外科処置	16		
7	6月14日	一般歯科(歯科保存、歯科補綴 歯周治療)	17		
8	6月21日	歯科診療における医療費	18		
9			19		
10			20		

講義方法 板書、スライド
講義で使用する機器・教材 PC(持参)、プロジェクター
履修上の注意事項 基本的に板書をノートに記入する習慣をつけること。 講義で使用したスライドは配布しません。
成績評価方法 平常点、出席日数、試験結果を総合的に判断する
教科書 「歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版」 医歯薬出版
参考書
予習復習のアドバイス 毎回講義終了時に次回予定を示すので、教科書の該当部分を予習しておくこと。
記載日 令和5年3月21日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	歯内療法学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	鈴木茂樹	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯髄・根尖歯周組織の治療法である歯内治療の基本的な知識・技術を理解する。				
	到達目標				
	歯内治療の目的と各種歯内治療法を説明できる。歯内治療に用いる歯科用器具や材料および薬剤について説明できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月5日	歯内療法の概要 歯髄炎と根尖性歯周炎の違い	11		
2	10月19日	歯内療法の診査・診断	12		
3	10月26日	歯髄保存療法 鎮痛消炎療法と覆髄法	13		
4	11月2日	歯髄の除去療法 歯髄切断法と抜髄法	14		
5	11月9日	根管治療の術式	15		
6	11月16日	根管充填法 根未完成歯の処置	16		
7	11月30日	外科的歯内療法 歯の外傷	17		
8	12月7日	歯内療法における安全対策 偶発症とその対策	18		
9			19		
10			20		

講義方法

配布資料に沿って進めながら、随時関連情報や資料をスライドに示すので、前方スライドにも集中すること。

講義で使用する機器・教材

講義では教科書とスライドを使用し、資料を配布する。

履修上の注意事項

歯内療法は保存修復と共に、歯を保存するために最も基本的かつ重要な治療法の一つです。日々の歯科診療において、ほぼ毎日参加する治療法ですので、集中して知識を習得すること。

成績評価方法

講義への出欠状況と学期末試験によって成績を評価する。

教科書 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）

参考書

エンドドンティクス 第5版 永末書店
歯内治療学 第4版 医歯薬出版
歯内療法学専門用語集 医歯薬出版
保存修復学専門用語集 第2版 医歯薬出版

予習復習のアドバイス

講義までにその日の講義内容に相当するページを読んでくること。
講義内容でわからないことや自宅復習での疑問点があれば聞きに来ること。

記載日 令和 5年3月7日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	保存修復学	講義曜日	木	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	兼平正史	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯の硬組織疾患の種類とその病態の把握と各種検査法、診断と処置方法、修復に必要な前準備等の総括的事項の習得と、コンポジットレジン修復、グラスアイオノマーセメント修復、インレー修復、ベニア修復等の理論及び術式について学び、保存修復における歯科衛生士の役割を学ぶ。				
	到達目標				
	保存修復学の意味と概要を理解し、各種修復法の理工学的性質と修復法を習得する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	11月2日	保存療法とは、硬組織疾患及び発育異常 P.1－P.20	11		
2	11月9日	窩洞と保存修復治療の概要 P.21－P.37	12		
3	11月16日	コンポジットレジン修復 P.38－P.52	13		
4	11月30日	セメント修復、合着・接着 P.52－P.60、P.77－P.82	14		
5	12月7日	鋳造修復 P.61－P.68	15		
6	12月14日	ポーセレンおよびレジンインレー P.68－P.72	16		
7	12月21日	ラミネートベニア修復、歯科衛生士の役割 P.73－P.76、P.77－P.85	17		
8	1月11日	保存修復における歯科衛生士の役割 P.85－P.111	18		
9			19		
10			20		

講義方法

授業スライドはプリントにて配布予定。プロジェクターを用いて講義を行う。

授業開始時に前回内容の復習テストを行い、理解の確認を行う。

講義で使用する機器・教材

「最新歯科衛生士教本(歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法)」 医歯薬出版

履修上の注意事項

授業前に前回の復習テストを行います。

授業内容について予習・復習をしてください。

成績評価方法

定期試験(100点)

教科書

「歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学」 医歯薬出版

参考書

予習復習のアドバイス

授業予定の教科書の箇所を一読し、授業に臨んでください。

授業スライドに書き込みを行ってもらい、復習に使ってください。

記載日 令和 5年3月7日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	歯科補綴学	講義曜日	水	講義回数	8回
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	笠原 紳	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科補綴処置の適応症例、補綴装置、製作法、メンテナンスを講義する				
	到達目標				
	正常な口腔機能と歯の欠損状態における症状を説明できる。 各種補綴装置の適応症、管理方法が説明できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	11月15日	歯科補綴学概要	11		
2	11月22日	歯科補綴治療の基礎知識	12		
3	11月29日	咬合と顎機能、検査方法	13		
4	12月6日	歯科補綴学治療の実際 使用器具、材料	14		
5	12月13日	クラウンブリッジ補綴学	15		
6	1月10日	部分床義歯学	16		
7	1月17日	全部床義歯学	17		
8	1月24日	インプラント概説	18		
9			19		
10			20		

講義方法

板書、スライド、模型

講義で使用する機器・教材

PC(持参)、液晶プロジェクター、説明用模型(持参)

履修上の注意事項

講義は基本的に板書しますので、ノート記入をすること

成績評価方法

平常点、出席日数、試験結果を総合的に判断する

教科書 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版

※教科書最終ページに示されている発行日、版、刷を確認すること

参考書**予習復習のアドバイス**

講義終了時、次回講義の内容を示すので、教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと

記載日 令和4年 3月 20 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和5年度)	時 期	後期	学 年	1学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	9:00-10:30		
科目名	口腔外科学	講義曜日	月、水	講義回数	10
		総時間数	15	単位数	1
講師名	森島浩允、江副祐史、梶田倫功、鈴木飛佳理	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔外科学の観点を理解し、基礎となる知識を習得する				
	到達目標				
	口腔外科治療の対象となる疾患を理解し、治療方法を説明できる				
回数	月日	講義内容			
1	12月18日(月)	全身疾患（鈴木飛佳理）			
2	12月20日(水)	口腔外科学総論・インプラント（森島浩允）			
3	1月10日(水)	口腔粘膜疾患（江副祐史）			
4	1月15日(月)	顎関節疾患、神経疾患（梶田倫功）			
5	1月17日(水)	顎顔面の外傷（森島浩允）			
6	1月22日(月)	良性腫瘍。嚢胞（鈴木飛佳理）			
7	1月29日(月)	先天異常および後天異常（梶田倫功）			
8	1月31日(水)	歯・歯槽および周辺組織の外科（江副祐史）			
9	2月5日(月)	悪性腫瘍（鈴木飛佳理）			
10	2月7日(水)	顎口腔の炎症（森島浩允）			

講義方法

第一回での講義で総論を示し、2回目以降より、各疾患の定義、治療方法について説明します。

講義で使用する機器・教材

視聴覚教材として、ビデオやPCを利用する。

適宜資料としてプリントを配布する。

履修上の注意事項

講義時間内での、記録の整理(情報収集と処理)をするように集中する事。

成績評価方法

学期末試験(100%)によって成績を評価する。

教科書

歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学

参考書

白砂兼光、古郷幹彦（編）”口腔外科学” 第3版

予習復習のアドバイス

自分でわからないことがあったら、そのままに放置せず、必ずわかるまで、調べるか、わかるまで聞くこと。それも、その時、その日のうちに。

放置している時間が長ければ、それだけわからないことが増えてくる。

記載日 令和5年4月14日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	小児歯科学	講義曜日	木曜日	講義回数	8回
		総時間数	15	単位数	1
講師名	小松偉二	実務経験			
講義目標	一般目標				
	小児歯科の特徴と小児歯科診療の目的を理解する				
	到達目標				
	小児の心身の発育、歯列、咬合の発育、小児の口腔にみられる疾患(特にう蝕と歯周疾患)に関する知識を習得する				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月5日	・小児歯科学概論 ・心身の発達、小児の生理的特徴	11		
2	10月26日	・顔面頭蓋の発育 ・歯・歯列・咬合の発育とその異常	12		
3	11月9日	・小児の歯科疾患 ・小児虐待	13		
4	11月16日	・小児期の特徴と歯科的問題点 ・小児歯科における患者との対応	14		
5	11月30日	・小児歯科における診療体系	15		
6	12月20日 (水) 4時 間目	・障害児の歯科治療	16		
7	1月18日 1時間目	・う蝕予防	17		
8	1月24日(水) 1時間目	・小児の口腔健康管理 ・歯科診療室と器材の管理	18		
9			19		
10			20		

講義方法 教科書に沿ってすすめる
講義で使用する機器・教材 教科書 プリント
履修上の注意事項 講義には必ず教科書を持参すること
成績評価方法 出席状況 筆記試験
教科書 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）
参考書
予習復習のアドバイス 予習として事前に教科書に目を通すこと及びその日の講義内容を復習することでより理解を深めていく事が望ましい
記載日 令和 5年 3月 8日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	2時間目		
科目名	歯科矯正学	講義曜日	金曜日	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	茂見 翔平	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科矯正学の観点を理解し、作業療法の基礎となる知識を習得する。				
	到達目標				
	歯科矯正治療の概要について理解し説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月20日	矯正歯科治療の概要 成長発育	11		
2	10月27日	正常咬合と不正咬合	12		
3	11月10日	矯正歯科診断	13		
4	11月17日	矯正歯科治療と力	14		
5	11月24日	矯正装置	15		
6	12月15日	矯正歯科治療の実際	16		
7	1月12日	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割①	17		
8	1月19日	矯正歯科臨床における歯科衛生士の役割②	18		
9			19		
10			20		

講義方法

スライドを流して、教科書の内容を説明します。スライドは印刷して配布します。

講義で使用する機器・教材

PCでスライドを流します。教科書を使用し、授業スライドのプリントは配布します。

履修上の注意事項

特にありません。

成績評価方法

試験の点数を100%として成績を評価する。

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学（医歯薬出版）

参考書

教科書内容メインで進めます。国家試験で出されている問題、内容なども意識しながら進めます。

予習復習のアドバイス

事前に教科書の該当箇所を読んでおき、授業の理解を深めることが望ましいです。

記載日 令和 5年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅰ-1	講義曜日	変則	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	若木まみ、佐藤暁子、加藤美智子 他	実務経験	若木: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 加藤: 歯科医院に歯科衛生士として15年間勤務		
講義目標	一般目標				
	歯科予防処置についての概念と基本的な知識・技術および態度を修得する。				
	到達目標				
	①歯科予防処置について(う蝕・歯周病・フッ化物の応用等)の概要と基礎知識を理解する。②歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査や治療に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。③歯周診査用器具を正しく操作する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月24日	歯科予防処置論の概要 歯科予防処置とはp2～p13	11	6月28日	う蝕と歯周病の基礎知識 ③う蝕とはp32～p37
2	4月25日	口腔の基礎知識 歯科衛生士とは 用語・歯式・口腔の構造と機能p16～p27	12	7月5日	う蝕予防の基礎知識 ①う蝕に関する指標と検査 p174～p182
3	5月2日	う蝕と歯周病の基礎知識 ①口腔内の付着物・沈着物p28～p32	13	7月12日	フッ化物局所応用によるう蝕予防法 ①フッ化歯面塗布p233～p241
4	5月9日	う蝕と歯周病の基礎知識 ②歯周病とは、口腔内の観察 p37～p43	14	8月23日	フッ化物局所応用によるう蝕予防法 ②フッ化物洗口p241～p247
5	5月16日	歯周診査用器材について 器材配布・使用目的・管理・小豆つかみ実習	15	8月30日	フッ化物局所応用によるう蝕予防法 ③フッ化物配合歯磨剤、急性中毒への対応p247～p256
6	5月23日	歯周治療の基礎実習 ①シックルスケーラーの構成、使用目的、基本操作、姿勢、ポジションp186～p191	16		
7	5月30日	歯周治療の基礎実習②前腕回転運動	17		
8	6月6日	歯周治療の基礎実習③手根関節運動	18		
9	6月13日	歯周治療の基礎実習④手指屈伸運動・連続運動	19		
10	6月20日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) p44～33	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②マネキン実習:マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習:自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策を考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」、顎模型、石膏柱、基本セット、マネキン、パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

- ・講義を必ず受講し、実習に参加すること。限られた時間で実習を行うため、欠席すると学習に大きく影響するので注意すること。
- ・身だしなみを整えて講義・実習に臨むこと。
- ・忘れ物のないよう準備をしっかり行い、講義・実習に臨むこと。

成績評価方法

期末試験

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

記載日 令和 5年 3月 15日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅰ-2 ※(歯周)(16回)	講義曜日	変則	講義回数	16
		総時間数	30/60	単位数	1
講師名	若木まみ、佐藤暁子、加藤美智子 他	実務経験	若木: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 加藤: 歯科医院に歯科衛生士として15年間勤務		
講義目標	一般目標				
	相互実習を通して、口腔疾患予防のための専門的知識・技術を習得し、患者へ一連の流れに沿った対応ができる技能を身につける。				
	到達目標				
	①相互実習で一連の流れに沿った処置と対応を身につける。②シックル型スケーラーの種類・特徴・使用方法を理解する。③スケーリング技法に必要な器具の把持法や適切なポジショニングを理解し、シックルスケーラーの基本操作を身につける。④PMTC・エアフローの目的を理解し、手技方法を身につける。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月4日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) #13～23	11	1月23日	口腔内診査実習オリエンテーション
2	10月12日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) #44～47頬側、#34～37舌側	12	1月29日	問診・口腔内洗浄・診査・プロービング・エクスプローリング・動揺度相互実習
3	10月12日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) #44～47舌側、#34～37頬側	13	1月29日	問診・口腔内洗浄・診査・プロービング・エクスプローリング・動揺度相互実習
4	10月19日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) #24～27	14	2月5日	問診・口腔内洗浄・診査・プロービング・エクスプローリング・動揺度相互実習
5	11月2日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) #14～17	15	2月5日	問診・口腔内洗浄・診査・プロービング・エクスプローリング・動揺度相互実習
6	11月10日	スケーリング基礎技法(マネキン実習) 総合	16	2月7日	口腔内診査実習まとめ
7	12月20日	PMTC・エアフロー 講義 バイオフィルムとは p222～232	17		
8	12月20日	PMTC・エアフロー実習 (顎模型上)	18		
9	1月18日	歯周診査用器材の基本操作①(顎模型上)プロービング・エクスプローリングの基本操作 p139～p151	19		
10	1月18日	歯周診査用器材の基本操作②(顎模型上)プロービング・エクスプローリングの基本操作	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②マネキン実習:マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習:自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策を考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」、顎模型、石膏柱、基本セット、マネキン、スケーラー(シッケル)、プロジェクター、配布印刷物

履修上の注意事項

- ・講義を必ず受講し、実習に参加すること。限られた時間で実習を行うため、欠席すると学習に大きく影響するので注意すること。
- ・身だしなみを整えて講義・実習に臨むこと。
- ・忘れ物のないよう準備をしっかり行い、講義・実習に臨むこと。

成績評価方法

科目試験、出席状況、学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

記載日 令和 5年 3月 15日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置論Ⅰ－2 ※(う蝕予防)(16回)	講義曜日	変則	講義回数	16
		総時間数	30/60	単位数	1
講師名	小松偉二、若木まみ、佐藤暁子 他	実務経験	小松: 歯科医師として開業 9年間 若木: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務		
講義目標	一般目標				
	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識・技術、および態度を習得する。				
講義目標	到達目標				
	①フッ化物歯面塗布法の術式を説明できる。 ②フッ化物歯面塗布実施上の注意点を説明できる。 ③う蝕活動性試験の目的・種類を説明できる。 ④う蝕活動性試験を実施できる。 ⑤対象者のう蝕活動性を評価し問題点を列記し、う蝕予防プログラムを立案できる。 ⑥小窩裂溝填塞法の種類と特徴を説明できる。 ⑦小窩裂溝填塞法の術式を説明できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月4日	カリオロジー学 土門	11	11月22日	う蝕に関する検査(カリエスリスク・テスト) ④う蝕活動性試験の実際(RD・SM・LB・CAT21test・緩衝能、唾液分泌量)(実習)
2	10月18日	フッ化物の応用 p233～253 フッ化物の基本、薬剤、保管方法など(講義)	12	11月24日	カリエスリスク検査の実際⑤検査結果の評価(演習)
3	10月18日	フッ化物の応用 p233～253 歯面塗布の術式、洗口法、フッ化物配合歯磨剤について(講義)	13	11月29日	カリエスリスク検査の実際⑥まとめ(講義)
4	10月25日	フッ化物の応用 p253～256 フッ化物の毒性と急性中毒への対応(講義)	14	12月14日	小窩裂溝填塞法① p258～264 適応歯と種類、術式、注意点など
5	10月25日	フッ化物の応用 p256～258 ライフステージ別のフッ化物局所応用(講義)	15	12月14日	小窩裂溝填塞法② 術式の実際(マネキン実習またはデモ)
6	11月1日	フッ化物の応用 フッ化物洗口・フッ化物歯面塗布(綿球法、トレー法)の術式と注意点(マネキン・自己実習)	16	1月10日	科目試験振り返り、まとめ
7	11月8日	唾液・プラーク	17		
8	11月8日	う蝕に関する検査(カリエスリスク・テスト) ①p174～182 う蝕活動性試験の意義・条件・目的(講義)	18		
9	11月14日	う蝕に関する検査(カリエスリスク・テスト) ②実習のオリエンテーション	19		
10	11月20日	カリエスリスク検査の実際 ③う蝕活動性試験の実際(RD・SM・LB・CAT21test・緩衝能、唾液分泌量)(相互実習)	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②マネキン実習:マネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習:自己または相互で実際の口腔内を利用し、感染対策を考慮しながら行う。

講義で使用する機器・教材

(講義)PC、プロジェクター、配布印刷物

(実習)マネキン、顎模型、基本セット(ミラー、ピンセット等)、簡易防湿(コットンロール等)、フッ化物塗布一式、カリエスリスク検査一式、シーラント一式

履修上の注意事項

講義を必ず受講し、実習に参加すること。限られた時間で実習を行うため、欠席すると学習に大きく影響するので注意すること。身だしなみを整えて講義・実習に臨むこと。忘れ物のないよう準備をしっかりと行い、講義・実習に臨むこと。

成績評価方法

期末試験

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版

参考書

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んでおくこと。
- ②専門用語とその意味を理解すること。
- ③復習も兼ねて学習し、その積み重ねを充実させること。
- ④実習については、事前に目的や術式を理解し、手順を確認しながら臨むこと。

記載日 令和 5年 3月 15日

講義要項(シラバス)

年 度	令和 5年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科保健指導 I	講義曜日	火・金	講義回数	24
		総時間数	45	単位数	3
講師名	佐藤暁子、若木まみ 他	実務経験	佐藤：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務 若木：歯科医院に歯科衛生士として7年勤務		
講義目標	一般目標 口腔の健康を通して、全身の健康の維持・増進するための基礎知識を身につける。				
	到達目標 対象となる人の特徴やニーズを理解したうえで、歯科衛生介入するための知識と技術を習得する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月21日	口腔の基礎知識	16	10月25日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑥成人期
2	5月12日	歯科保健指導の概要	17	10月25日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 歯科衛生研究
3	5月19日	う蝕と歯周病の基礎知識	18	11月1日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 歯科衛生研究
4	5月26日	食生活指導のための栄養学	19	11月1日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 歯科衛生研究発表
5	6月2日	食生活指導のための栄養学	20	11月8日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 歯科衛生研究発表
6	6月9日	口腔衛生管理	21	11月8日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑦老年期
7	6月16日	口腔機能管理	22	11月15日	配慮を要する者への歯科衛生介入
8	6月23日	行動変容に関する理論	23	11月22日	医療面接
9	6月30日	生活習慣に関する指導	24		歯科保健指導まとめ
10	10月4日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ①妊産婦	25		
11	10月4日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ①妊産婦	26		
12	10月11日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ②乳児期	27		
13	10月11日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ③幼児期	28		
14	10月18日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ④学齢期	29		
15	10月18日	ライフステージに対応した歯科衛生介入 ⑤青年期	30		

講義方法

座学・実習・演習・

iPadを使用した資料作成

講義で使用する機器・教材

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

パワーポイント、プロジェクター、配布印刷物、iPad

履修上の注意事項

欠席や遅刻をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう

意欲的に学んでください。

成績評価方法

筆記試験 70% 課題30%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

参考書

「最新歯科衛生士教本 小児歯科」全国歯科衛生士協議会監修 医歯薬出版株式会社

「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科」全国歯科衛生士協議会監修 医歯薬出版株式会社

予習復習のアドバイス

記載日 令和 5年 4月 3日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和 5年度)	時 期	前期	学 年	1学年
学 科	歯科衛生科	講義時間			
科目名	歯科保健指導Ⅱ	講義曜日	火水	講義回数	16
		総時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤暁子 若木まみ 人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標 歯科保健指導において、対象者の健康を保つためのセルフケアに必要な口腔清掃用具の種類や使用方法を習得する。				
	到達目標 個人を対象とした歯科保健指導が出来るようになるための、基礎知識・技術を習得する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	5月23日	歯ブラシの基礎知識 実習室	11	1月17日	電動歯ブラシの種類と特徴実習室
2	5月23日	歯ブラシの基礎知識実習 実習室	12	1月17日	デンタルガム・タブレット 実習室
3	5月30日	各種清掃用具 実習室	13	1月24日	口腔清掃指導法 実習室
4	5月30日	各種清掃用具実習 実習室	14	1月24日	口腔清掃指導法 実習室
5	6月6日	歯磨剤の基礎知識	15	1月31日	洗口液・洗口剤 実習室
6	6月13日	ブラッシング法 実習室	16	1月31日	口腔ケア用品 実習室
7	6月13日	ブラッシング法実習 実習室	17		
8	6月20日	歯磨剤の検討 実習室	18		
9	6月20日	ライオン製品全般 実習室	19		
10	6月27日	口腔清掃自習法 実習室	20		

講義方法

講義、演習、実習、グループディスカッション、小テスト

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、配布資料、歯ブラシセット、顎模型

履修上の注意事項

1. 歯科予防処置論・歯科保健指導論の教科書は必ず持参すること
2. 配布資料は無くすことのないよう保管すること

成績評価方法

筆記試験 100%

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論

参考書**予習復習のアドバイス**

1. 学習したことは国家試験問題集で復習しましょう

記載日 令和 5 年 4月 3日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5年)	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	3・4		
科目名	歯科診療補助Ⅰ①	講義曜日	木	講義回数	10/30
		総時間数	60	単位数	4
講師名	高橋正敏 笠原江利子 加藤礼子 加藤美智子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	歯科診療補助および歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	5月25日	歯科診療補助の概念 (加藤礼子) 心得 身だしなみ	1	左同日	診療補助の実習室使用について (加藤美智子)
2	6月1日	歯科材料・器材、機械の特性 滅菌消毒機器(加藤礼子)	2	左同日	歯科ユニットにつて (加藤美智子)
3	6月8日	医療安全と感染予防 (加藤礼子) 滅菌・消毒(講義・デモ)	3	左同日	手指衛生 個人防護 (加藤美智子)
4	6月8日	基本器具の名称と取り扱い (加藤礼子)	4	左同日	綿花、綿球 (加藤美智子)
5	6月15日	滅菌・消毒(講義・デモ) (加藤礼子) 滅菌方法、パックの仕方 実習A→B	5	左同日	滅菌、消毒物の取り扱い方法 B→A (加藤美智子)
6	6月15日	歯科診療における基礎知識(加藤礼子) 歯科実習台、実習室の使い方A→B	6	左同日	共同動作 ユニットの取り扱い(加藤美智子) B→A
7	6月22日	印象材の取り扱い(実習) (加藤礼子、補助) アルジネート印象 (加藤礼子、補助) A	7	左同日	ライティング、ポジショニング(加藤美智子、補助)
8	6月22日	印象材の取り扱い(実習) (加藤礼子、補助) アルジネート印象 (加藤礼子、補助) B	8	左同日	ライティング、ポジショニング(加藤美智子、補助)
9	6月29日	連合印象印象材の取り扱い(加藤礼子、補助) (合成ゴム質)A	9	左同日	アルジネート印象採得(片顎) (加藤美智子、補助) B
10	6月29日	印象材の取り扱い(実習) (加藤礼子、補助) (合成ゴム質)B	10	左同日	アルジネート印象採得(片顎) (加藤美智子、補助) A

講義方法

教科書、スライド、プリント、実習

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみチェック項目で総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料 歯科機器 指示のあったもの

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して予習復習すること。

令和5年3月9日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5年)	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	3・4		
科目名	歯科診療補助Ⅰ②	講義曜日	木	講義回数	10/30
		総時間数	60	単位数	4
講師名	高橋正敏 笠原江利子 加藤礼子 加藤美智子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	歯科診療補助および歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
11	7月6日	石膏の取り扱い(実習))A (加藤礼子、補助)	11	左同日	連合印象(寒天・アルジ)B (加藤美智子、補助)
12	7月6日	石膏の取り扱い(実習)B (加藤礼子、補助)	12	左同日	連合印象(寒天・アルジ)A (加藤美智子、補助)
13	7月13日	歯科材料学総論(高橋) 歯科材料の基本的性質	13		
14	7月13日	印象材、種類と用途、性質(高橋) アルジネート印象材、寒天印象材	14		
15	7月20日	合成ゴム質印象材(高橋) シリコーンゴム印象材	15		
16	7月20日	模型材(高橋) 歯科用石膏の種類と用途、性質	16		
17	8月30日	共同動作の基本実習について (加藤礼子、補助) 患者誘導、ポジション、ライティング	17	左同日	滅菌・消毒、フォーハンド、バキュー マネキン実習 B (加藤美智子、補助)
18	8月30日	共同動作の基本実習について (加藤礼子、補助) 患者誘導、ポジション、ライティング	18	左同日	滅菌・消毒、フォーハンド、バキュー マネキン実習 A (加藤美智子、補助)
19	10月5日	合着材、接着材の取り扱い(加藤礼子、補助) リン酸亜鉛、カルボキシレートA	19	左同日	グラスアイオノマー、レジン系 B (加藤美智子、補助)
20	10月5日	合着材、接着材の取り扱い(加藤礼子、補助) リン酸亜鉛、カルボキシレートB	20	左同日	グラスアイオノマー、レジン系 A (加藤美智子、補助)

講義方法 教科書、スライド、プリント、実習
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみチェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料 歯科機器 指示のあったもの
参考書
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して予習復習すること。
令和5年3月9日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5年)	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	3・4		
科目名	歯科診療補助Ⅰ③	講義曜日	水木	講義回数	10/30
		総時間数	60	単位数	4
講師名	高橋正敏 笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身につける。歯科材料、機器の種類、使用目的、用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	歯科診療補助および歯科材料、機器に関する知識を学び、その基本を習得し、臨床の場に対応できるようにする。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
21	10月12日	成形歯冠修復材、バイトワックスの取り扱い(講義・実習) 1級窩洞充填 A(加藤礼子、補助)	21		仮封・仮着材の取り扱い(講義・実習) B (加藤美智子、補助)
22	10月12日	成形歯冠修復材、バイトワックスの取り扱い(講義・実習) 1級窩洞充填 B(加藤礼子、補助)	22		仮封・仮着材の取り扱い(講義・実習) A (加藤美智子、補助)
23	10月19日	合着・接着材の性質(高橋正敏) 種類と用途	23		
24	10月19日	成形歯冠修復材の性質(高橋正敏) 種類と用途	24		
25	10月26日	仮封・仮着材の性質(高橋正敏) 種類と用途	25		
26	10月26日	ワックスの性質、その他(高橋正敏) 種類と用途	26		
27	1月25日	共同動作の基本実習A(加藤礼子、補助) ポジショニング、バキュームテクニック	27		フォーハンド、器具の受け渡し 器具の名称 B (加藤美智子、補助)
28	1月25日	共同動作の基本実習B(加藤礼子、補助) ポジショニング、バキュームテクニック	28		フォーハンド、器具の受け渡し 器具の名称 A (加藤美智子、補助)
29	2月1日	共同動作の基本相互実習(加藤礼子、補助) A	29		器具の名称 B (加藤美智子、補助) その他の器具の取り扱い
30	2月1日	共同動作の基本相互実習(加藤礼子、補助) B	30		器具の名称 A (加藤美智子、補助) その他の器具の取り扱い

講義方法

科書、スライド、プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、実技、身だしなみチェック項目で総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 歯科材料 歯科機器

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して予習復習すること。

令和5年3月9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	1年
学 科	歯科衛生科	講義時間	9:00～10:30		
科目名	感染予防学	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	遠藤英昭	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助の際に必要な歯科感染予防の基礎的知識、技術および態度を修得する。				
	到達目標				
	①患者に対して、歯科専門の感染に配慮した対応ができる:②診療設備(歯科用ユニット、滅菌器など)の使用や管理ができる:③歯科医療安全の管理に含まれる、感染対策、標準予防策、廃棄物管理などができる:④消毒薬、滅菌用器械、滅菌に配慮した器具の準備・操作・取扱い・管理ができる:⑤重要な感染性疾患を理解し、感染予防を実践することができる				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月19日	感染の成立と院内感染 (感染症概論・関連法規など)	11		
2	4月26日	感染に対する標準予防策 (スタンダードプリコーション)	12		
3	5月10日	滅菌・消毒の概念と手段 (方法、消毒薬、抗菌スペクトル)	13		
4	5月17日	歯科器材の消毒・滅菌 (方法の詳細と使い分け)	14		
5	5月24日	医療廃棄物の取り扱い (法令と具体的取り扱い)	15		
6	5月31日	針刺し切創・体液曝露事故 (予防対策・曝露後の対応)	16		
7	6月7日	歯科医院の感染対策 (院内感染対策ガイドライン)	17		
8	6月14日	歯科で重要なウイルス疾患 (肝炎・HIVなどの感染症)	18		
9			19		
10			20		

講義方法
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項
成績評価方法
教科書 歯科医療における国際標準 感染予防対策テキスト滅菌・消毒・洗浄（ICHG研究会編、医歯薬出版）
参考書 「エビデンスに基づく一般歯科診療における院内感染対策実践マニュアル改訂版」 日本歯科医学会 編,（永末書店）
予習復習のアドバイス
記載日 令和 5年 月 日

講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	1
学 科	歯科衛生科	講義時間	実習45時間		
科目名	臨地実習Ⅰ（臨床実習を含む）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	45	単位数	1
講師名	佐藤暁子 加藤美智子 若木まみ 笠原江利子	実務経験	若木: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤: 歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 加藤: 歯科医院に歯科衛生士として15年間勤務 笠原: 医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	前半の見学実習では、歯科診療所の業務内容および診療所の一員としての歯科衛生士の役割を理解する。歯科診療所臨床実習では、これまでに学習した知識や技術を理解し、歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	臨床現場における歯科衛生士の業務を見学し、さらに学内で学んだ知識や技術を実践することによって、歯科衛生士の役割を理解し、自分になりたい歯科衛生士像をイメージする。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	歯科診療所見学実習 9月（2日間）	5	
2	歯科診療所臨床実習 12月（2日間）	6	
3		7	
4		8	

講義方法
成績評価方法
実習に関する最終評定は、実習指導報告書及び実習後のセミナー内容などから総合的に判断し、養成施設が判定（単位認定）する。
参考書
予習復習のアドバイス

講義要項(シラバス)

年 度	2 0 2 3 年 度	時 期	後期	学 年	1年
学 科	歯 科 衛 生 科	講義時間	1時間目		
科目名	情 報 処 理	講義曜日	金	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	丸 山 千 恵	実務経験			
講義目標	一般目標 ・パソコンを利用し、日常業務の問題解決の手法を修得する。 ・パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。				
	到達目標 ・情報化社会の中で、パソコンを日常業務の道具として駆使できること。 ・最小限のアプリケーションソフトを使いこなし、情報処理能力を高めること。 ・文書処理などの一般的な操作が理解できること。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10/13 ①	・授業オリエンテーション ・タッチタイピング	11		
2	10/20 ①	・マイクロソフト Wordの使い方 ・タッチタイピング	12		
3	10/27 ①	・タッチタイピング ・Word機能紹介	13		
4	11/10 ①	・社外文書作成① ・Word機能紹介	14		
5	11/17 ①	・社外文書作成② ・Word機能紹介	15		
6	11/24 ①	・社外文書作成③ ・Word機能紹介	16		
7	12/15 ①	・マイクロソフト Excelの使い方 ・Excel機能紹介	17		
8	1/12 ①	・Excel機能紹介・表作成 ・課題提出	18		
9			19		
10			20		

講義方法

- ・特にパソコンの操作は学生により差があると思われるが、学校教育の一科目であるため、基礎から指導する。その後は各人の進捗に合わせて適切な実習を行う。
- ・学生とコミュニケーションを取りながら楽しくマシン実習行う。

※この講義では、604教室を使用します。

講義で使用する機器・教材

- ・講義説明はプロジェクター使用。

履修上の注意事項

- ・授業には休まず毎日出席すること。欠席は提出課題作成などの遅れとなる。
- ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋がります。

成績評価方法

- ・主に提出課題で成績評価とする。
- ・成績評価には平常点として授業態度や出欠状況も加算し、総合的に評価する。

教科書

- ・30時間でマスターWord & Excel 2019。

参考書

- ・特になし。
- ・別途プリント配布あり。

予習復習のアドバイス

- ・特に予習復習の必要はなし。
- ・課題作成の遅れは、授業の空きコマや放課後に各自マシンを使用し実習できる。

記載日 2023年 4月 1 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯科英語	講義曜日	火曜日	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	石幡浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	日常の臨床で使用される歯科英語を理解し、実際に使用できるようにする。				
	到達目標				
	①歯科用英単語の意味を理解し、暗記できる。②歯科用英語を使って、患者さんと基本的なコミュニケーションがとれるようにする。③英語圏で実際に歯科衛生士の用いる用語を学ぶ。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月25日	Unit9 喫煙と食生活	11		
		Smoking and Eating Habits			
2	5月2日	Unit10 歯周病対策	12		
		How to Prevent Gum Disease			
3	5月9日	Unit11 乳幼児のむし歯予防	13		
		Dental Health of Infants			
4	5月16日	Unit12 歯の健康のための活動	14		
		Dental Health Activities			
5	7月18日	Unit13 デイケアセンターにて	15		
		At an Daycare Center			
6	8月22日	Extra Unit A 歯科用語	16		
		Dental Terminology			
7	8月29日	Extra Unit B1 歯衛生士的一天(1)	17		
		Mission of Dental Hygienist 1			
8	9月5日	Extra Unit B1 歯衛生士的一天(2)	18		
		Mission of Dental Hygienist 2			
9			19		
10			20		

講義方法

1年生に引き続き、教科書に沿って文法や単語の使用方法に加え、会話のニュアンスを学びます。
歯科専門用語とその使用法を学びます。
米国の歯科医院における、歯科衛生士の業務と会話を学びます。

講義で使用する機器・教材

教科書、プリント

履修上の注意事項

暗記が必要な単語、特に歯科用語が沢山あるため、予習・復習をこまめに行いましょう。

成績評価方法**教科書**

歯科英語の練習帳: 歯の健康づくりをサポートする英語表現(萌文書林)

参考書**予習復習のアドバイス**

記載日 令和 5年 3月 日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	歯周療法学	講義曜日	木曜日	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	1
講師名	石幡 浩志	実務経験			
講義目標	一般目標				
	高齢社会の我が国では、歯周病罹患者のケアによる口腔の健康的機能維持が医学的、社会的に極めて重要である。歯科衛生士には国民のニーズを的確に捉え、その治療と予防に積極的に関わる使命がある。その実践に不可欠な歯周疾患の病態と、その予防、治療に関する基礎知識、治療手技および介助技術を履修する。				
	到達目標				
	歯科医師と連携し、クライアントの歯周疾患の病態を把握する検査・分析法を習得する。次に、病態の原因を分析、プロファイリングによって、適切な治療計画が立案され、クライアントに説明、理解を得るまでの各プロセスを学習する。そして治療計画に沿って、適切に行われる施術等を理解し、最後に治療効果の再評価に基づき、患者QOL向上に寄与するメンテナンス指導法について習得する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月6日	歯周疾患の基礎知識－概要、歯周組織の構造と機能（Ⅰ編1、2章）	11	9月21日	歯周治療における機能回復治療、咬合調整、矯正、固定（Ⅱ編5章1～4）
2	4月20日	歯周疾患の基礎知識－歯周病の分類（Ⅰ編3章の1）	12	9月28日	歯科用インプラント、メンテナンス、SPT（Ⅱ編5章5、6章）
3	4月27日	歯周病の原因、歯周医学、インプラント周囲疾患（Ⅰ編3章の2～4）	13	10月5日	歯周治療の実際－歯科衛生業務のフロー（Ⅲ編1章1、2）
4	5月11日	歯周病の予防と治療の基本、治療の進め方、問診（Ⅱ編1章、2章の1）	14	10月19日	リスクマネジメント－プラーク、全身状態、生活習慣（Ⅲ編1章3）
5	5月18日	歯周病検査－視診、ポケット、動揺度、プラーク・歯石付着（Ⅱ編2章2）	15	10月26日	歯周外科手術の介助、機能回復治療（咬合調整）（Ⅲ編1章5、6）
6	7月20日	歯周病検査－咬合、エックス線、スタディモデル、習癖（Ⅱ編2章3～5）	16		
7	8月24日	歯周基本治療の目的と効果、内容初診から再評価（Ⅱ編3章1、2）	17		
8	8月31日	薬物療法（Ⅱ編3章付）、X線診査による診断と治療の実際（読影実習）	18		
9	9月7日	歯周外科治療の目的、分類、禁忌、治癒形態（Ⅱ編4章1、2）	19		
10	9月14日	歯周外科治療の器材、歯周外科手術の種類と適用（Ⅱ編4章3、4）	20		

講義方法

スライドによる補完的説明を加えながら教科書の内容を中心に歯周病学を紹介します。
理解力の確認のための小テストを行い、必要に応じてレポートを提出していただきます。

講義で使用する機器・教材

教科書および配布プリント

履修上の注意事項

教科書におけるシラバス講義内容に記載されている項目について授業前までに目を通しておくこと
試験は国家試験を念頭に、教科書の内容の入念な習得が成されたかを計るものであるから、
隅々まで理解し記憶すること。

成績評価方法

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯周病学（医歯薬出版）

参考書

予習復習のアドバイス

記載日 令和 5年 3月 9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3時間目		
科目名	障がい者・高齢者歯科 （障がい者歯科）	講義曜日	金	講義回数	5
		総時間数	7.5	単位数	0.5
講師名	猪狩和子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	障害のある人のQOLを高める歯科的援助を行うために、障がい者の全身・精神・行動・顎口腔の特徴を理解し、これらの人々に対する歯科医療の機能と役割および支援法を習得する				
	到達目標				
	1. 障害の概念を説明できる 2. 障がい者歯科医療体制とそこの中での歯科衛生士の役割を説明できる 3. 障がい者の歯科治療における行動調整法と留意点を説明できる 4. 障がい者の口腔ケアの必要性和支援法を説明できる				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	8月25日	障がいの概念 地域における障がい者歯科	11		
2	9月1日	歯科医療で特別な支援が必要な疾患	12		
3	9月8日	障がい者の歯科医療と行動調整	13		
4	9月29日	障がい者の健康支援と口腔衛生管理	14		
5	10月6日	障がい者歯科におけるリスク評価 発達期の摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割	15		
6			16		
7			17		
8			18		
9			19		
10			20		

講義方法 授業は、基本的に教科書に沿って章単位で、配布プリントをもとにスライドを使って進めていく。講義時間内にその日の講義内容のポイントを示し、次回授業の初めにポイントを中心に小テストを行い、復習する。
講義で使用する機器・教材 PC、プロジェクター、配布プリント、教科書
履修上の注意事項 他の臨床科目で学んでいる基本的な歯科疾患の特徴や治療法を理解して授業に臨むと、障害のある人における留意点の理解がしやすい。 毎回、前回授業時に配布したプリントを持参すること。
成績評価方法 定期筆記試験(100%)により成績を評価する。 授業で行う小テストは成績評価対象に含めない。
教科書 歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」(医歯薬出版)
参考書 日本障害者歯科学会 編集 「スペシャルニーズデンティストリー 障害者歯科」 第2版 (医歯薬出版)
予習復習のアドバイス 5回の授業で教科書のすべてを網羅できないため、授業内容に相当する教科書の各章を一度は読んでおいてほしい。歯科医療のみならず、障がい者への医療・福祉・教育制度など関連分野にも視野を広げて障害と障害のある人への理解と関心を深めたい。
記載日 令和 5年 3月 12日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度		時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科		講義時間	4時間目		
科目名	障がい者・高齢者歯科 (高齢者歯科)		講義曜日	水	講義回数	5
			総時間数	7.5時間	単位数	0.5
講師名	田中恭恵		実務経験			
講義目標	一般目標					
	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。					
	到達目標					
	①全身および口腔の加齢と老化を説明できる。②人口の超高齢化による社会環境の変化を説明できる。③高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。④高齢者の歯科治療時における介助と安全管理を説明できる。⑤高齢者の口腔健康管理を説明できる。⑥歯科訪問診療の意義と目的を説明できる。⑦高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。⑧サルコペニアとフレイルを説明できる。⑨高齢者の終末期ケアを説明できる。⑩高齢者の誤嚥性肺炎の原因と口腔健康管理を説明できる。					

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	8月30日	高齢者をとりまく社会と環境	4	9月20日	高齢者の口腔健康管理
2	9月6日	加齢による身体的・精神的変化と疾	5	9月27日	高齢者に関わる医療と介護
3	9月13日	高齢者の状態の把握			

講義方法
教科書とスライドを中心とした講義を実施します。
講義で使用する機器・教材
履修上の注意事項
成績評価方法
授業への出席・参加態度:20%
期末テスト:80%
教科書
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版
参考書
予習復習のアドバイス
記載日 令和5年 3月 9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科放射線学	講義曜日	火曜日	講義回数	9
		総時間数	15	単位数	1
講師名	嶋田雄介	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士に必要なエックス線診断の基礎を学び、基本的な病態診断の技術を習得するとともに、放射線の生理学的影響やエックス線の性質、撮影法について、理解を深める。				
	到達目標				
	1. エックス線の性質を理解し、歯科医療における正しいエックス線の利用法と歯科衛生士が果たす役割を認識する。 2. エックス線診断の基礎を理解し、基本的な病態診断の技術を修得する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月3日	エックス線の基礎知識	11		
2	10月10日	歯科用エックス線装置	12		
3	10月17日	放射線防護	13		
4	10月24日	歯科用エックス線撮影法(口内法)	14		
5	10月31日	歯科用エックス線撮影法(口外法)	15		
6	11月7日	歯科用エックス線撮影法(パノラマ)	16		
7	11月14日	CT MRI 超音波 放射線治療	17		
8	11月21日 1時間目	撮影実習(1) 実習室	18		
9	11月21日 2時間目	撮影実習(2) 実習室	19		
10			20		

講義方法

1～7回は座学 8、9回は実習形式で行う。

講義で使用する機器・教材

教科書および配布プリントを使用する。

履修上の注意事項

講義時間内にできるだけ理解を深められるよう、努めること。

成績評価方法

試験(90%)、受講態度(10%)によって成績を評価する。

教科書

歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学 学建書院

参考書**予習復習のアドバイス**

あとから復習ができるよう、講義内容を整理しておくこと。

記載日 令和 5年 3月 9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間			
科目名	歯科予防処置論Ⅱ－（歯周） 前期①（32回：演習）	講義曜日		講義回数	16
		総時間数	120	単位数	4
講師名	歯科医師、人見早苗、若木まみ	実務経験			
講義目標	一般目標 人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標 ①歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類、特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本の手順・方法を理解する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月17日	SRPの基礎技術① ㊦ Gキュレット基本操作(石膏棒)	11	7月18日	シャープニング基礎実習② ㊦
2	4月17日	SRPの基礎技術① ㊦ Gキュレット基本操作(石膏棒)	12	7月21日	下顎のSRPの基礎振り返り ※人工歯石付与について(上顎)
3	4月24日	SRPの基礎技術② ㊦ Gキュレット基本操作(石膏棒)	13	8月21日	SRP基礎技法④(マネキン実習) #13～#23(唇側・口蓋側) * 歯肉なし :補助DH 1人
4	4月24日	SRPの基礎技術② Gキュレット基本操作(0度挿入) ※人工歯石付与について(下顎)㊦	14	8月21日	SRP基礎技法④(マネキン実習) #13～#23(唇側・口蓋側) * 歯肉なし :補助DH 1人
5	5月1日	SRP基礎技法①(マネキン実習) #43～#33(唇側・舌側) * 歯肉なし ㊦ :補助DH 1人	15	8月22日	SRP基礎技法⑤(マネキン実習) #24～#27(口蓋・頬側) * 歯肉なし :補助DH 1人
6	5月1日	SRP基礎技法①(マネキン実習) #43～#34(唇側・舌側) * 歯肉なし :補助DH 1人	16	8月22日	SRP基礎技法⑤(マネキン実習) #24～#27(口蓋・頬側) * 歯肉なし :補助DH 1人
7	5月8日	SRP基礎技法②(マネキン実習) #44～#47(唇側・舌側) * 歯肉なし ㊦ :補助DH 1人	17		
8	5月8日	SRP基礎技法②(マネキン実習) #44～#47(唇側・舌側) * 歯肉なし :補助DH 1人	18		
9	5月15日	SRP基礎技法③(マネキン実習) #34～#37(唇側・舌側) * 歯肉なし ㊦ :補助DH 1人	19		
10	5月15日	SRP基礎技法③(マネキン実習) #34～#37(唇側・舌側) * 歯肉なし :補助DH 1人	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は:机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③実習:実際の口腔内で器具操作を想定し、器材の安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。
- ④適時ミニテスト・課題を出すことがある

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、基本セット(M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット)グローブ、ゴーグル、サンドペーパー、拡大鏡、シャープニングストーン、テスター、分度器、油性ペン、トレーニング用石膏模型

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

実技試験、出席状業、実習・学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレーシー型キュレットの構造と特徴をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ⑤休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

記載日 令和5年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間			
科目名	歯科予防処置論Ⅱ－(歯周)前期②（32回:演習）	講義曜日		講義回数	16
		総時間数	120	単位数	4
講師名	歯科医師、人見早苗、若木まみ	実務経験			
講義目標	一般目標 人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標 ①歯周治療の方法を理解し、歯周組織検査に必要な器具の種類と特徴、使用方法を理解する。 ②グレーシーキュレット等器具の種類、特徴を説明できる。 ③SRP技法に必要な器具の把持法や、マネキン上で適切なポジショニングを理解し、グレーシーキュレットの基本操作ができる。 ④シャープニングに必要な基本的手順・方法を理解する。 ⑤PTCの目的を理解し基本的技術を身に着ける。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	8月28日	SRP基礎技法⑥(マネキン実習) #14~#17(口蓋・頬側)*歯肉なし ※実技試験について :補助DH 1人	11	9月12日	PTC・歯面研磨 (講)
2	8月28日	SRP基礎技法⑥(マネキン実習) #14~#17(口蓋・頬側)*歯肉なし ※実技試験について :補助DH 1人	12	9月12日	PTC・歯面研磨 (講) ⑥ ※歯面研磨基礎実習オリエンテーション
3	8月29日	シャープニング基礎実習③ ⑥	13	9月19日	歯面研磨基礎実習(マネキン) :補助DH 1人
4	8月29日	上顎のSRP振り返り※人工歯石付与	14	9月19日	歯面研磨基礎実習(マネキン) ※PTC・PMTC基礎実習オリエンテーション :補助DH 1人
5	9月4日	総合自由練習	15	9月26日	PTC・PMTC基礎実習(マネキン) :補助DH 1人
6	9月4日	試験オリエンテーション ※人工歯石付与	16	9月26日	PTC・PMTC基礎実習(マネキン) :補助DH 1人
7	9月5日	実技試験 :補助DH 2人	17		
8	9月5日	実技試験 :補助DH 2人	18		
9	9月11日	再試験または自己トレーニング :補助DH 2人	19		
10	9月11日	再試験または自己トレーニング :補助DH 2人	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は:机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③相互実習:学生間の実際の口腔内で器具・器材が安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種(M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、サンドペーパー、拡大鏡、シャープニングストーン、テスター、分度器、油性ペン、トレーニング用石膏模型、エプロン、低速エンジン、コントラアングル、歯面研磨材

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

実技試験、出席状況、実習・学習態度

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①予習として教科書をよく読んで、実習に臨む。
- ②グレーシー型キュレットの構造と特徴をよく理解する。
- ③基礎で理解したポジションや把持法、刃部と歯面の関係など十分に把握すること。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。
- ⑤休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

記載日 令和5年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間			
科目名	歯科予防処置論Ⅱ－(歯周)①	講義曜日		講義回数	17
		総時間数	120(32回)	単位数	4
講師名	歯科医師、人見早苗、若木まみ	実務経験			
講義目標	一般目標 人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標 ①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し、情報を収集し口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる(プロービング、BOP、動揺度、PCR、根分岐部病変等) ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要なグレーシー型キュレット、シックル型スケーラー等器具、器材を選択し操作できる。 ④歯周治療に必要な機器の操作ができる。(歯面研磨・歯面清掃、超音波スケーラー・エアースケーラー、歯面清掃器等)				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月2日	禁煙の問題と指導(講義)Ⓟ	11	10月31日	B.歯周組織検査・口腔診査: A..問診・医療面接・PCR・バイタル B. 残り3人 :補助DH 2人
2	10月3日	周術期の口腔管理(講義)Ⓟ ※口腔内観察オリエンテーション	12	10月31日	
3	10月10日	A.口腔内観察 B.プロービング練習(マネキン) :補助DH 2人	13	10月31日	
4	10月10日	B.口腔内観察 A.プロービング練習(マネキン) :補助DH 2人	14	11月7日	A.SRP相互実習(上下顎前歯部) B.歯科保健指導計画 :補助DH 2人
5	10月16日	歯科衛生士過程について(講義)Ⓟ ※相互実習オリエンテーション	15	11月7日	A.SRP相互実習(上下顎前歯部) B.歯科保健指導(各15分の指導)
6	10月17日	相互実習(歯周組織検査・口腔診査・PCR・ バイタル・SRP)オリエンテーション :補助DH 2人	16	11月7日	
7	10月17日	A.歯周組織検査・口腔診査 B.問診・医療面接・PCR・バイタル	17	11月14日	B.SRP相互実習(上下顎前歯部) A.歯科保健指導計画 :補助DH 2人
8	10月17日	※A. 最初の1人:補助DH	18	11月14日	B.SRP相互実習(上下顎前歯部) A.歯科保健指導(各15分の指導)
9	10月24日	A.歯周組織検査・口腔診査: B.問診・医療面接・PCR・バイタル :補助DH 2人	19	11月14日	
10	10月24日	※A. 残り2人	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は:机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③相互実習:学生間の実際の口腔内で器具・器材が安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。
- ④適時、ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種(M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、フェイスシールド、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面研磨器材、PMTG器材、シャープニング器材、染めだし液、ワセリン、綿棒、ダッペンングラス、歯磨きセット、手鏡、様式一式(口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録)

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。
新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状業、学習態度 課題評価

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①2年前期で学習した器具操作は、理解し教科書が無くても実施できるようにする。
- ②実習予定部位・内容について、器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。
- ③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解、口腔衛生指導に反映する。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

記載日 令和5 年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間			
科目名	歯科予防処置論Ⅱ－(歯周)②	講義曜日		講義回数	15
		総時間数	120(32回)	単位数	4
講師名	歯科医師、人見早苗、若木まみ	実務経験			
講義目標	一般目標 人々のライフステージを通じた健康な口腔機能の維持・増進を支援するために、専門的な歯周治療に関する知識、技術および態度を習得する。				
	到達目標 ①患者さんの全身の健康状態と口腔内の状況を把握し、情報を収集し口腔衛生指導ができる。 ②口腔内で歯周組織検査を実施できる(プロービング、BOP、動揺度、PCR、根分岐部病変等) ③口腔内の状況に応じて歯周治療に必要な器材を選択し操作できる。(シックル型スケーラー、グレーシー型キュレット、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面研磨、PMTC等) ④様々な患者が抱える口腔の問題点を把握し、行動変容へ導くための知識を学習する。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	11月16日	パワースケーラー(講義) ※科目試験範囲の公表	11	12月8日	(45分)
2	11月16日	パワースケーラー(マネキン実習) :補助DH 1人	12	12月12日	B.SRP相互実習(上下右側臼歯部) A.PCR・歯科保健指導 * 超音波Sc等の使用 :補助DH 2人
3	11月28日	A.SRP相互実習(上下左側臼歯部) B.PCR・歯科保健指導 * 超音波Sc等の使用 :補助DH 2人	13	12月12日	
4	11月28日		14	12月12日	(45分)
5	11月28日	(45分)	15	12月13日	SRP後の評価 振り返り(講)
6	12月5日	B.SRP相互実習(上下左側臼歯部) A.PCR・歯科保健指導 * 超音波Sc等の使用 :補助DH 2人	16	12月15日	科目試験
7	12月5日		17	1月5日	科目試験振り返り まとめ
8	12月5日	(45分)	18		
9	12月8日	A.SRP相互実習(上下右側臼歯部) B.PCR・歯科保健指導 * 超音波Sc等の使用 :補助DH 2人	19		
10	12月8日		20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す。また、講義内容の復習を心掛ける。
- ②演習・実習は:机上及びマネキンを使用し基礎技術の習得を行う。
- ③相互実習:学生間の実際の口腔内で器具・器材が安全管理、消毒滅菌に配慮し操作できるようにする。
- ④適時、ミニテスト・課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、顎模型、スケーラー各種(M23、Gキュレット#5/#6、#7/#8、#11/#12、#13/#14、プローブ、エクスプローラー、ミラー、ピンセット、グローブ、ゴーグル、フェイスシールド、超音波スケーラー、エアースケーラー、歯面研磨器材、PMTC器材、シャープニング器材、染めだし液、ワセリン、綿棒、ダッペングラス、歯磨きセット、手鏡、様式一式(口腔診査票・問診・歯周組織検査・指導計画表・歯科衛生士実地指導記録)

履修上の注意事項

実習については、限られた時間で区切られた部位を行うため、欠席すると大きく学習に影響することになってしまう。くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、実習予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状業、学習態度 課題評価

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①2年前期で学習した器具操作は、理解し教科書が無くても実施できるようにする。
- ②実習予定部位・内容について、器具、器材操作方法を教科書を読み予習しておく。
- ③自分が担当する患者役の口腔内の問題点と生活習慣や食習慣等との関わりを考察し理解、口腔衛生指導に反映する。
- ④自発的な自己トレーニングを怠らないこと。休みの期間に、器具を全く持たない期間を作らないこと。

記載日 令和5 年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	令和 5年度	時 期	通 年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間			
科目名	歯科保健指導Ⅱ（臨床応用 ）	講義曜日	水 木	講義回数	16
		総時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤暁子 若木まみ 人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標 歯科保健指導において、個人や集団を対象とした歯科保健教育が出来るようになるための基礎知識・技術を習得する。				
	到達目標 対象年齢を理解し、集団指導を行うための計画を立案し実施できる能力を身につける。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月4日	学校歯科保健 対象者の把握	11	8月23日	ブラッシング指導相互実習 実習室
2	4月4日	学校歯科保健 集団指導資料作成	12	8月23日	ブラッシング指導相互実習 実習室
3	4月5日	学校歯科保健 集団指導資料作成	13	8月30日	口腔ケア用品 実習室
4	4月5日	学校歯科保健 集団指導資料作成	14	9月6日	訪問口腔衛生指導
5	4月7日	学校歯科保健 集団指導仮発表	15	11月24日	窒息の対処法
6	4月7日	学校歯科保健 集団指導仮発表	16	9月13日	歯科保健指導Ⅱ まとめ
7	4月13日	学校歯科保健 集団指導資料作成	17		
8	4月13日	学校歯科保健 集団指導資料作成	18		
9	4月19日	学校歯科保健 合同発表	19		
10	4月19日	学校歯科保健 合同発表	20		

講義方法

座学、演習、実習、グループワーク

講義で使用する機器・教材

パワーポイント、プロジェクター、iPad

履修上の注意事項

欠席や遅刻、忘れ物をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう意欲的に学んでください。

成績評価方法

筆記試験 100%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

参考書**予習復習のアドバイス**

- 1.教科書をよく読んで 予習復習してください。
- 2.授業で学んだことは国家試験問題集で復習しましょう。

記載日 令和 5 年 4月 3日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1時間目		
科目名	栄養学	講義曜日	木曜日	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	笹山由貴	実務経験			
講義目標	一般目標				
	栄養学の基礎、ライフステージ別の特性、適切な栄養管理を理解する				
	到達目標				
	歯科衛生士として、健康づくりにおける食生活改善指導ができる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月5日	栄養の基礎知識	5	11月2日	水、食物繊維 国民栄養の現状と課題
2	10月12日	食事摂取基準・糖質	6	11月9日	望ましい食生活～成人期
3	10月19日	タンパク質・脂質	7	#####	高齢期～食べ物と健康
4	10月26日	ビタミン、ミネラル	8	#####	定期テスト

講義方法

スライドとテキストを使用する

講義で使用する機器・教材

パワーポイント

履修上の注意事項

成績評価方法

定期試験100%

教科書

歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝

参考書

予習復習のアドバイス

予習 教科書に目を通しておくこと
復習 授業終了後に配布するワークを解いておくこと

記載日 令和5年 3月16日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ①	講義曜日	変則	講義回数	10/60
		総時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月7日	診療補助目的と到達目標 相互実習について	1		
2		感染予防 (加藤礼子 横澤 山本) 手指衛生 PPD 医療廃棄物	2		
3	4月13日	歯科診療補助の基本①(加藤礼子) 記録、略語、各種名称 (小テスト)	3		
4		共同動作の基本 (加藤礼子) バキュームテクニック(マネキン)	4		
5	4月21日	歯科診療補助の基本②(加藤礼子) 診療器具 略称(小テスト)	5		
6		共同動作の基本実習(加藤礼子 横澤、山本) バキュームテクニック(マネキン)	6		
7	4月26日	共同動作の基本実習(加藤礼子 横澤、山本)A班 バキュームテクニック(マネキン、ユニット)	7	左同日	課題 保存修復の診療補助 B班 器具 略称 他
8		共同動作の基本実習(加藤礼子 横澤、山本)B班 バキュームテクニック(マネキン、ユニット)	8		課題 保存修復の診療補助 A班 器具 略称 他
9	4月27日	バキューム、口腔内洗浄相互実習 (加藤礼子 横澤 山本)A班	9	左同日	課題 歯内療法の診療補助 B班 器具 略称 他
10		バキューム、口腔内洗浄相互実習 (加藤礼子 横澤 山本)B班	10		課題 歯内療法の診療補助 A班 器具 略称 他

講義方法

教科書、スライド、プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。連絡掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみ、チェック項目で総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください。

令和5年3月18日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ②	講義曜日	変則	講義回数	10/60
		総時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
11	5月10日	印象材の取り扱いA班(加藤礼子 補助 アルジネート印象 マネキン	11	左同日	課題 各種セメント 印象材 レポート 小テスト B班 (補助)
12		印象材の取り扱いB班(加藤礼子 補助 アルジネート印象 マネキン	12		課題 各種セメント 印象材 レポート 小テスト A班 (補助)
13	5月11日	連合印象採得(寒天 アルジネート 石膏) 1級窩洞 A班(加藤礼子 補助)	13	左同日	課題 補綴の診療補助 B班 セメント練和 器具 小テスト (補助)
14		連合印象採得(寒天 アルジネート 石膏) 1級窩洞 B班(加藤礼子 補助)	14		課題 補綴の診療補助 A班 セメント練和 器具 小テスト (補助)
15	5月18日	連合印象採得シリコーン、石膏注入 2級窩洞 A班(加藤礼子 補助)	15	左同日	課題 口腔外科の診療補助 B班 器具 小テスト 他(補助)
16		連合印象採得シリコーン、石膏注入 2級窩洞 A班(加藤礼子 補助)	16		課題 口腔外科の診療補助 A班 器具 小テスト 他(補助)
17	5月19日	アルジネート印象 相互実習(片顎) A班 (加藤礼子 補助)	17	左同日	課題 歯周外科の診療補助 器具 小テスト 他 (補助)
18		アルジネート印象 相互実習(片顎) B班(加藤礼子 補助)	18		課題 歯周外科の診療補助 器具 小テスト 他(補助)
19	7月19日	実習の歯科診療補助確認と報告 報告書作成	19		
20		報告	20		

講義方法

教科書、スライド、プリント

講義で使用する機器・教材

その都度連絡します。連絡掲示に注意してください。

履修上の注意事項

欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。

実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。

日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。

成績評価方法

出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみ、チェック項目で総合的に評価する。

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください。

令和5年2月22日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ③	講義曜日	変則	講義回数	11/60
		総時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
21	8月24日	歯肉圧排法 について (加藤美智子 補助) 歯肉圧排実習(マネキン)(加藤礼子 補助)	21		
22	8月31日	歯肉圧排、シリコーン印象採得 前歯支台歯 A班 (加藤美智子 補助)	22	左同日	連合印象採得 寒天、アルジネー 石膏 大臼歯支台歯 B班(加藤礼子 補助)
23		歯肉圧排、シリコーン印象採得 前歯支台歯 B班 (加藤美智子 補助)	23		連合印象採得 寒天、アルジネー 石膏 大臼歯支台歯 B班(加藤礼子 補助)
24	9月7日	支台歯 連合印象採得 仕上げ (加藤美智子 補助)	24	左同日	石膏注入 トリミング (加藤礼子 補助)
25		支台歯 連合印象採得 仕上げ (加藤美智子 補助)	25		石膏注入 トリミング (加藤礼子 補助)
26	9月14日	成形歯冠修復材の取り扱い CR充填 (加藤美智子・補助) A班	26	左同日	グラスアイオノマーセメント充填 (加藤礼子・補助) A班
27		成形歯冠修復材の取り扱い CR充填 (加藤美智子・補助) B班	27		グラスアイオノマーセメント充填 (加藤礼子・補助) A班
28	9月21日	実技試験 A班 (加藤美智子 補助)	28	左同日	実技試験 B班(加藤礼子 補助)
29		実技試験 C班(加藤美智子 補助)	29		実技試験 D班(加藤礼子 補助)
30	9月28日	筆記試験 試験解説 (加藤美智子)	30		
31		実技試験総評 復習 (加藤礼子)	31		

講義方法 教科書、スライド、プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。連絡掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみ、チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください。
令和5年2月22日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ④	講義曜日	変則	講義回数	9/60
		総時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
31	10月13日	暫間被覆冠について 前歯部既成冠 TeC作成 A班(加藤礼子・補助)	31	左同日	暫間被覆冠について 前歯部既成冠 TeC作成 B班(加藤美智子・補助)
32			32		
33			33		
34	10月20日	暫間被覆冠 大臼歯 即時重合レジン圧接法 A班(加藤礼子・補助)	34	左同日	暫間被覆冠 大臼歯 即時重合レジン圧接法 B班(加藤美智子・補助)
35			35		
36			36		
37	10月27日	仮着材の取り扱い(加藤礼子・補助)A 暫間被覆冠の装着。余剰セメン除去	37	左同日	仮封材の取り扱い(加藤美智子・補助) 充填と除去B
38		仮着材の取り扱い(加藤礼子・補助)B 暫間被覆冠の装着。余剰セメン除去	38		仮封材の取り扱い(加藤美智子・補助) 充填と除去A
39	11月2日	歯科補綴の診療補助 歯冠修復、義歯	39	左同日	歯科補綴の診療補助 歯冠修復、義歯
40		リベース材の取り扱い A班 (加藤礼子・補助)	40		ティッシュコンの取り扱い B班 (加藤美智子・補助)

講義方法 教科書、スライド、プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。連絡掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみ、チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください。
令和5年3月9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ⑤	講義曜日	変則	講義回数	10/60
		総時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
41	11月9日	口腔外科の診療補助(加藤美智子、補 感染防止 シールド、PPD A班	41	左同日	口腔外科の診療補助(加藤礼子、補助 外科器具の取り扱い B班
42		口腔外科の診療補助(加藤美智子、補 感染防止 シールド、PPD B班	42		口腔外科の診療補助(加藤礼子、補助 外科器具の取り扱い A班
43	11月15日	口腔内写真撮影について 器具の取り扱い、ポジション、手順	43	左同日	
44	11月15日	口腔内写真撮影相互実習 A班加藤美智子	44	左同日	口腔内写真撮影相互実習 B班 加藤礼子
45			45		
46	11月21日	口腔内写真撮影相互実習 C班 加藤美智子	46	左同日	口腔内写真撮影相互実習 D班 加藤礼子
47			47		
48	11月24日	口腔内写真 評価、シェードテイク AC班 加藤美智子	48	左同日	口腔内写真 評価、シェードテイク BD班加藤礼子
49	11月30日	審美歯科の診療補助	49		
50		審美歯科の診療補助	50		

講義方法 教科書、スライド、プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。連絡掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみ、チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください。
令和5年3月18日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ⑥	講義曜日	変則	講義回数	6/60
		総時間数	120	単位数	4
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科診療補助業務の基礎知識と技術を学び、身に着ける。歯科材料、機器の種類、目的用途や特性について理解し、実施する。				
	到達目標				
	医療安全について説明と実践ができる。歯科材料や器械の説明、取り扱い、共同動作における各種器具の取り扱いができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
51	12月5日	矯正歯科の診療補助(加藤美智子)	51	左同日	
52	12月7日	矯正歯科の診療補助(加藤美智子)	52		
53	12月15日	実技試験 (A班 加藤美智子 B班 加藤礼子)	53		実技試験 (B班 加藤礼子 補助)
54		実技試験 (D班 加藤礼子)	54		実技試験 (D班 加藤礼子 補助)
55	1月5日	筆記試験(加藤美智子)	55		
56		試験解説(加藤美智子) 実技試験総評 (加藤礼子)	56		

講義方法 教科書、スライド、プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。連絡掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により減点となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験、身だしなみ、チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 歯科材料 歯科機器 各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書・プリントを使用して復習すること 1年時の復習をしておいてください。
令和5年3月9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5 年度	時 期	通年	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅱ (摂食嚥下リハビリテーション)	講義曜日		講義回数	8
		総時間数	15	単位数	
講師名	遠藤 佳子、川田 真純、吉田 由里子、 河瀬聡一郎	実務経験			
講義目標	一般目標 摂食嚥下障害を有する対象者及び高齢者について、多職種協働によるチームアプローチ の中で、歯科衛生士が果たす役割を認識し、適切な摂食嚥下指導を実施することが出来る。				
	到達目標 高齢者の摂食嚥下リハビリテーションを説明し、アセスメントと嚥下指導が実施出来る。 障害児者の摂食嚥下リハビリテーションを説明し、、アセスメントと嚥下指導が実施出来る。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	11月18日 (土)①	摂食嚥下障害とは 遠藤佳子			
2	11月18日 (土)②	摂食嚥下障害 評価 遠藤佳子			
3	11月18日 (土)③	間接訓練 遠藤佳子			
4	11月18日 (土)④	直接訓練 遠藤佳子			
5	11月24日 (金)①	発達期の摂食嚥下機能障害の原因 川田真純			
6	11月24日 (金)④	摂食嚥下障害の評価と対応 河瀬聡一郎			
7	12月14日 (木)③	発達期の摂食嚥下機能障害の評価 吉田由里子			
8	12月14日 (木)④	発達期の摂食嚥下機能障害の訓練・指導 吉田由里子			
9	／				
10	／				

講義方法

講義・演習を行う

講義で使用する機器・教材

適宜PC等を使用する

履修上の注意事項**成績評価方法**

複数の教員でカリキュラム運営を行うため、それぞれでの小テスト、課題、実習態度などを踏まえて総合的に評価する。

教科書

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション第2版(医歯薬出版株式会社)

参考書**予習復習のアドバイス**

記載日 令和 5年 5月 9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	2年
学 科	歯科衛生科	講義時間	4時間目		
科目名	臨床検査法	講義曜日	水曜日	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	後藤弓里子 砂田咲子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科衛生士として患者の全身状態を把握するため、基本的な臨床検査法を学ぶ。				
	到達目標				
	臨床検査の基本的知識と有病者への対応を習得する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月4日	講義オリエンテーション	11		
2	10月11日	臨床検査法とは	12		
3	10月18日	生理検査	13		
4	10月25日	尿検査 血液検査と採血法	14		
5	11月1日	血液型検査 貧血の検査	15		
6	11月8日	出血性素因の検査 感染症の検査	16		
7	11月22日	肝機能検査、糖尿病の検査 病理検査	17		
8	11月29日	口腔領域の検査 国家試験問題について	18		
9			19		
10			20		

講義方法

パワーポイントを用い講義(対面、オンライン、オンデマンド)および実習を行う。

講義で使用する機器・教材

プロジェクター、PC、体温計(水銀、電子、耳孔用電子体温計など)、血圧計(水銀、自動血圧計など)

履修上の注意事項

正当な理由がない限り講義を欠席しないこと

成績評価方法

出欠およびテストの成績を総合的に評価する。

教科書

歯科衛生学シリーズ 臨床検査 医歯薬出版

参考書**予習復習のアドバイス**

授業の前日に教科書を読んできると理解しやすい。

記載日 令和5年 3月 20日

講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	本実習180時間		
科目名	臨地実習Ⅱ（臨床実習を含む）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	180	単位数	4
講師名	加藤美智子 佐藤暁子 若木まみ 笠原江利子	実務経験	若木:歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤:歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 加藤:歯科医院に歯科衛生士として15年間勤務 笠原: 医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	1年時で習得した内容を応用し、より高度で実践的な知識や技術、協調性などを身に着ける。 現場での各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うこと				
	到達目標				
	地域保健において歯科衛生士に必要な知識や技術、協調性などを身に着け、患者様に寄り添い、地域のために働ける歯科衛生士を目指す。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	本実習 180時間		
2			
3			
4			

講義方法
成績評価方法
① 実習及びセミナーへの出席状況 ②実習課題の提出状況及び内容 ③ 実習後のセミナーへの発表内容 * 上記①～③を勘案し、養成施設が判定（単位認定）を
参考書
予習復習のアドバイス

講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	2
学 科	歯科衛生科	講義時間	本実習270時間		
科目名	臨地実習Ⅲ（臨床実習を含む）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	270	単位数	6
講師名	加藤美智子 佐藤暁子 若木まみ 笠原江利子	実務経験	若木:歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤:歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 加藤:歯科医院に歯科衛生士として15年間勤務 笠原: 医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	2年の臨地実習Ⅱで習得した内容を応用し、より高度で実践的な知識や技術、協調性などを身に着ける。 現場での各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる。				
	到達目標				
	地域保健において歯科衛生士に必要なとなる知識や技術、協調性などを身に着け、患者様に寄り添い、地域のために働ける歯科衛生士を目指す。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	本実習 270時間		
2			
3			
4			

講義方法
成績評価方法
① 実習及びセミナーへの出席状況 ②実習課題の提出状況及び内容 ③ 実習後のセミナーへの発表内容 * 上記①～③を勘案し、評定用紙に養成施設が判定（単位認定）
参考書
予習復習のアドバイス

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	介護技術	講義曜日	変則	講義回数	10
		総時間数	15	単位数	1
講師名	本地光弘、横尾由香、大方広志、河瀬総一郎、上遠野純子	実務経験			
講義目標	一般目標 ・歯科診療補助において対象の疾患や障害の特徴を理解し、適切に動作介助が行えるようにする。				
	到達目標 ・高齢者の生理学的変化を踏まえ、歯科診療の際の安楽な姿勢の取り方を支援できる ・歯科診療において治療台などに移動する際の動作の介助が安全に行えるようになる ・認知症事例の心身の状態を理解し、その介助のポイントを踏まえた介助が行える。				

回数	月 日	講義内容	
1	11月13日 (月)①	訪問歯科診療の実際① 9:45-11:15 大方広志	
2	11月13日 (月)②	訪問歯科診療の実際②-2 11:30-12:15 (45分) 大方広志	
3	11月17日 (金)④	地域医療と多職種連携について 河瀬聡一郎	
4	10月17日 (金)⑤	災害医療 河瀬 聡一郎	
5	11月27日 (月) ③	高齢者の生理的変化(バイタルサインの診方) 管疾患事例の症状と障害像(援助のポイント) 本地光弘	
6	11月27日 (月) ④	起居動作・移乗動作の介助の仕方 (教室・廊下での実習) 本地光弘	
7	11月28日 (火) ① 9:15~	W/Cの動かし方、介助の仕方 杖歩行介助の仕方1 (実習室) 本地光弘	
8	11月28日 (火)② ~ 11:45	W/Cの動かし方、介助の仕方 杖歩行介助の仕方2 (実習室) 本地光弘	
9	12月15日 (木) 9:30~	介護の基本(介護保険等)① 横尾由香	
10	12月15日 (木) ~ 12:00	介護の基本(介護保険等)②-1 小テスト (45分) 横尾由香	

講義方法

講義・演習を行う

講義で使用する機器・教材

適宜PC等を使用する

履修上の注意事項

技術習得のため、演習を中心に講義を行うため、動きやすい恰好で参加すること。介護の基本(介護保険等)②-1、②-2は、45分ずつに分けて講義を行うため、15時間の講義であるが、講義回数は、10回となる。

成績評価方法

複数の教員でカリキュラム運営を行うため、それぞれでの小テスト、課題レポート、実習態度などを踏まえて総合的に評価する。時間数に応じた配点とし、判定する。

教科書

特になし

参考書**予習復習のアドバイス**

記載日 令和5年 4月21日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	救急法(麻酔・心電図を含む)	講義曜日	金	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	水田健太郎、佐々木詩織	実務経験			
講義目標	一般目標				
	全身麻酔法、局所麻酔法および精神鎮静法に必要な基礎知識を習得する。 歯科治療中の全身管理学と偶発症発生時の対応について学ぶ。 救急処置に必要な知識と技術を習得する。				
	到達目標				
	歯科治療における歯科麻酔の役割を説明できる。 全身状態とバイタルサインについて説明できる。 各種麻酔法を説明できる。 全身的偶発症への対応と救命処置について説明できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	5月12日 ③	歯科麻酔科学総論 水田健太郎	11		
2	5月19日 ④	バイタルサイン 佐々木詩織	12		
3	7月21日 ④	局所麻酔法 佐々木詩織	13		
4	8月25日 ④	全身麻酔法 佐々木詩織	14		
5	9月1日 ④	精神鎮静法 佐々木詩織	15		
6	9月8日 ④	歯科治療時の全身的偶発症 佐々木詩織	16		
7	9月15日 ④	救急蘇生法(講義) 佐々木詩織	17		
8	9月22日 ③	救急蘇生法(実習) 佐々木詩織	18		
9	9月22日 ④	救急蘇生法(実習) 佐々木詩織	19		
10			20		

講義方法

対面講義方式で行います。変更時は連絡します。

講義で使用する機器・教材

スライド形式(必要に応じて資料を配布します)

履修上の注意事項

9月22日の救急蘇生法では実際に胸骨圧迫等の実習を行います。
動きやすく、かがんだ時に問題のない服装で実習に参加しましょう。

成績評価方法

試験結果を元に評価します。試験についての補足説明は授業内で別途説明します。

教科書

歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書や授業時配布資料を用いて学習を進めましょう。

記載日 令和 5年 3月 6 日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	ビジネスマナー	講義曜日	水	講義回数	8
		総時間数	15	単位数	1
講師名	久納令子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	社会人として接遇マナーの重要性、表現を学ぶ。歯科衛生士としての受付対応・電話対応の基本的対応をロールプレイングを通して、習得する。				
	到達目標				
	社会人としての一般常識を学び、患者対応の基本を実践できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	10月4日 ①	自己紹介・学生と社会人の違い・組織で働くということ	11		
2	10月4日 ②	チームで仕事をすること・患者が求めるもの	12		
3	10月11日 ①	第一印象の重要性(身だしなみ・姿勢・表情・挨拶など)	13		
4	10月11日 ②	第一印象の重要性(物の受け渡し・ご案内・入退室の仕方など)言葉遣いの基本	14		
5	10月18日 ①	患者対応の基本	15		
6	10月18日 ②	患者対応の基本 ロールプレイング	16		
7	10月25日 ①	電話対応の基本 電話対応の基本ロールプレイング	17		
8	10月25日 ②	まとめ	18		
9			19		
10			20		

講義方法 座学においてテキストに基づき学び、表情や物の受け渡し等は実践にて学ぶ。 基本対応や電話対応もロールプレイングで身につくように指導。
講義で使用する機器・教材 電話機2台(10/25)
履修上の注意事項
成績評価方法 講義時間中、10/18基本対応、 10/25電話対応の際にロールプレイング実施時の評価を行う
教科書 なし
参考書
予習復習のアドバイス
記載日 令和5年 3月 9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	2学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	3, 4時間目		
科目名	看護概論	講義曜日	月	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	工藤洋子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	対象者のライフステージにおける健康上の問題・課題を理解し、対象者の健康の維持・向上に必要な知識と技術を習得する。また地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	①対象を理解し、必要な知識・技術について習得できる。 ②社会資源の活用と多職種との連携・協働、多様な場における歯科衛生士の役割について説明することができる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	10月2日 ③	オリエンテーション 保健・医療・福祉チームとの連携と役割	11		
2	10月2日 ④	対象の理解と支援	12		
3	10月16日 ③	看護技術(バイタルサイン 他)	13		
4	10月16日 ④	看護技術(吸引・栄養と食事・与薬 他)	14		
5	10月23日 ③	看護技術(演習)	15		
6	10月23日 ④	看護技術(演習)	16		
7	10月30日 ③	制度と社会資源	17		
8	10月30日 ④	地域包括ケアシステムにおける 歯科衛生士の役割	18		
9	11月6日	まとめ(定期試験)	19		
10			20		

講義方法

授業では、テキストと配布印刷物資料、視聴覚教材を活用する。

技術演習を行い、技術を習得する。

講義で使用する機器・教材

授業内で必要時お知らせします。

履修上の注意事項

遅刻・欠席・早退の扱いは、学校の規程に従って対処します。

成績評価方法

①試験(70%)…持込不可による問題を出題する

②課題レポート(20%)

③授業への参加態度(10%)

教科書

歯科衛生士のための看護学大意 第4版(全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会 編)

参考書

授業内で必要時お知らせします。

予習復習のアドバイス

予習は、講義の最後に次週の告知をするので、次週まで教科書の該当部分を読み、疑問点を調べてくること。

復習は、講義の内容について、教科書、資料をまとめ、国家試験問題を解いてみること。

記載日 令和5年4月1日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	心理学	講義曜日	月、水	講義回数	8
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	宇佐美 貴章	実務経験			
講義目標	一般目標				
	目にみえる世界とこころのなかの世界の両方に目を向けてみる				
	到達目標				
	自身のこころについて少しでも気づきを得る・他者のこころをもの思う姿勢を取り入れる				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	7月10日 (月)①	その人なりの現実	11		
2	7月10日 (月)②	外在化とリフレーミング	12		
3	7月19日 (水)①	非言語コミュニケーション	13		
4	7月19日 (水)②	ものの思い	14		
5	8月21日 (月)①	反動形成	15		
6	8月21日 (月)②	コンテインと抱える環境	16		
7	9月4日 (月)①	アイ・メッセージ	17		
8	9月4日 (月)②	主体性	18		
9			19		
10			20		

講義方法

ワーク・教科書を読む・パワーポイントでの説明・映像資料の視聴

講義で使用する機器・教材

教科書とパソコン

履修上の注意事項

ワークへの協力をお願いし

成績評価方法

試験およびワークシートの提出

教科書

こころのナース夜野さん 1 水谷緑 小学館

参考書

こころのナース夜野さん 2～6 水谷緑 小学館
平松っさんの心理学 1～3 高倉みどり 小学館

予習復習のアドバイス

参考書も読むと、理解が深まると思います

記載日 令和5年 3月 9日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	基礎歯科医学特論(1～20回)	講義曜日	変則	講義回数	20/30
		総時間数	40／60	単位数	4
講師名	笠原紳、立谷麻衣、他	実務経験			
講義目標	一般目標				
	必要な基本的歯科医学の知識と歯科の主要な疾患を理解する。歯科衛生士として、臨床につなげるための知識や技術の習得を確実にする。				
	到達目標				
	これまでに学んだ知識の理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	11月8日 (水)②	臨床歯科総論 笠原紳	11	9月11日 (月)③	生理学・口腔生理学総論 土谷昌広
2	12月20日 (水)③	歯科補綴学 笠原紳	12	9月11日 (月)④	生理学・口腔生理学各論 土谷昌広
3	11月17日 (金)③	生化学・口腔生化学総論 立谷麻衣	13	12月12日 (火)③	薬理学・歯科薬理学総論 中村卓史
4	12月8日 (金)③	生化学・口腔生化学各論 立谷麻衣	14	12月12日 (火)④	薬理学・歯科薬理学各論 中村卓史
5	1月18日 (水)④	歯周療法学総論 石幡浩志	15	9月13日 (水)	病理・口腔病理総論 13:30～ 佐々木優
6	1月25日 (水)④	歯周療法学各論 石幡浩志	16	9月13日 (水)	病理・口腔病理各論 ～16:45 佐々木優
7	11月10日 (金)③	微生物・口腔微生物学総論 多田浩之	17	11月29日 (水)①	口腔外科学総論 齋藤悠
8	11月10日 (金)④	微生物・口腔微生物学各論 多田浩之	18	11月29日 (水)②	口腔外科学各論 齋藤悠
9	9月4日 (月)③	オーラルフレイル 土谷昌広	19	11月17日 (金)①	障害者歯科学総論 猪狩和子
10	9月4日 (月)④	オーラルフレイル 土谷昌広	20	11月17日 (金)②	障害者歯科学各論 猪狩和子

講義方法
講義で使用する機器・教材 ○パワーポイントやDVDなどを使用します。
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること
成績評価方法 履修した科目をまとめて試験を行う。7月からの模試(主要3科以外の点数)も加味し、評定を行う。
教科書 これまでに使用した、各科目と¥教科書、国試対策本。
参考書
予習復習のアドバイス
記載日令和5年5月17日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	基礎歯科医学特論(21～30回)	講義曜日	火・木	講義回数	10./30
		総時間数	20／60	単位数	4
講師名	茂見翔平、村上任尚、他	実務経験			
講義目標	一般目標				
	必要な基本的歯科医学の知識と主要な疾患を理解する。歯科衛生士として、臨床に必要な知識や技術の習得を確実にする。				
	到達目標				
	これまでに学んだ知識の理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
21	11月28日 (火)③	歯科矯正学① 茂見翔平	11		
22	12月5日 (火)③	歯科矯正学② 茂見翔平	12		
23	12月14日 (木)②	衛生統計学① 村上任尚	13		
24	12月21日 (木)②	衛生統計学② 村上任尚	14		
25	11月9日 (木)②	歯内療法学① 鈴木茂樹	15		
26	11月16日 (木)②	歯内療法学② 鈴木茂樹	16		
27	11月28日 (火)①	歯科放射線学① 嶋田雄介	17		
28	11月28日 (火)②	歯科放射線学② 嶋田雄介	18		
29	12月7日 (木)①	救急法(麻酔・心電図を含む)① 佐々木詩織	19		
30	12月7日 (木)②	救急法(麻酔・心電図を含む)② 佐々木詩織	20		

講義方法
講義で使用する機器・教材 ○パワーポイントやDVDなどを使用します。
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
成績評価方法 まとめ試験を行い、評価する。7月からの模試(主要3科以外の点数)も加味し、評定を行う。
教科書
参考書 これまでに使用した、各科目の教科書、国試対策本
予習復習のアドバイス
記載日 令和5年5月17日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	衛生行政学・社会福祉学	講義曜日	火、水、金	講義回数	10
		総時間数	15時間	単位数	1
講師名	千脇隆志、高梨友也、笠原、人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標				
	法律・制度等の基本的枠組みと、歯科衛生業務を行う上で必要な諸法規を学ぶことを通して、日本の保健・医療・福祉制度と医療法制の理解することができる。				
	到達目標				
	個人と社会との関係の理解を深め、歯科衛生士として社会に参画する資質を身につけることができる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	7月4日 (火) ①	オリエンテーション・法制度論 千脇	11		
2	7月4日 (火) ②	社会福祉(1) 社会福祉行政、公的扶助 千脇	12		
3	7月12日 (水)③	医療関係職種 of 法律と業務 高梨	13		
4	7月12日 (水)④	社会保障(1) 社会保障、社会保険 高梨	14		
5	7月14日 (金)②	歯科医師法・歯科技工士法 笠原	15		
6	7月19日 (水)④	社会保障(2) 医療保険、年金保険 高梨	16		
7	7月21日 (金)②	歯科口腔保健の推進に関する法律 医療法 笠原	17		
8	8月23日 (水)③	歯科衛生士と法律 人見	18		
9	8月29日 (火)①	社会福祉(2) 障がい者の福祉制度、児童と家庭の福祉制度 千脇	19		
10	8月29日 (火)②	保険制度 介護保険制度 千脇	20		

講義方法

- テキストに沿って、進めます。
- 必要時、演習を行います。自ら考えて実践をイメージしていただきます。
- 実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。

講義で使用する機器・教材

- パワーポイントやDVDなどを使用します。
- 毎回、授業資料等を配布します。

履修上の注意事項

- 感染症予防のため、健康には留意ください。
- 感染対策については、学校の指示を確認し、授業に参加ください。
- 教科書を必ず持参してください。

成績評価方法

試験70%課題レポート20%授業態度10

教科書

歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2
保健・医療・福祉の制度 （医歯薬出版株式会社）

参考書

歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第10版

予習復習のアドバイス

- テキストに準拠した内容の講義をしますので、可能であれば、テキストを事前に読んできてください。

記載日 令和4年 3月31 日

講義要項(シラバス)

年 度	令5年度	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	臨床歯科医学特論(1～20回)	講義曜日	変則	講義回数	20/30
		総時間数	40／60	単位数	4
講師名	一ノ瀬正和、藤井昌彦、遠藤佳子 内藤章、小笠原康悦、飯久保正弘 中澤正絵、上遠野純子、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	様々なライフステージの対象を理解するために必要な基本的臨床医学の知識と主要な疾患を理解する。人々の健康保持・増進における歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	全身の疾患に関する理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	7月11日 (火)①	アレルギー・金属アレルギー① 小笠原康悦	11	11月9日 (木)①	内科学⑨ 神経疾患・精神疾患・ がん 一ノ瀬正和
2	7月11日 (火)②	アレルギー・金属アレルギー② 小笠原康悦	12	11月16日(木) ①	内科学⑩ 内科学のまとめ 一ノ瀬正和
3	6月29日 (木)①	内科学① 内科学への導入 一ノ瀬正和	13	7月13日 (木)③	情動機能から見た認知症 藤井昌彦
4	7月6日 (木)①	内科学② 感染症 一ノ瀬正和	14	7月20日 (木)③	口腔ケアと誤嚥性肺炎および 老年症候群 藤井昌彦
5	7月13日 (木)①	内科学③ 代謝・内分泌疾患 一ノ瀬正和	15	11月9日 (木)④	眼科学① 内藤 章
6	7月20日 (木)①	内科学④ 消化器疾患 一ノ瀬正和	16	11月16日(木) ④	眼科学② 内藤 章
7	8月24日 (木)①	内科学⑤ 循環器疾患 一ノ瀬正和	17	11月7日 (木)①	歯科と糖尿病① 中澤正絵
8	8月31日 (木)①	内科学⑥ 呼吸器疾患 一ノ瀬正和	18	11月7日 (木)②	歯科と糖尿病② 中澤正絵
9	9月7日 (金)①	内科学⑦ 腎・泌尿器・血液疾患 一ノ瀬正和	19	11月27日(月) ③	周術期① 飯久保正弘
10	11月14日 (木)①	内科学⑧ 免疫疾患・膠原病 一ノ瀬正和	20	11月27日(月) ④	周術期② 飯久保正弘

講義方法 ○実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。
講義で使用する機器・教材 ○パワーポイントやDVDなどを使用します。
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること
成績評価方法 平常点、小テスト(内科学、周術期、摂食嚥下リハ他)、7月からの国試模試における主要3教科の点数を総合して評価する。
教科書 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック(医歯薬出版株)
参考書
予習復習のアドバイス 臨床歯科医学特論の講義は、内科学をはじめ、周術期、摂食嚥下、認知症など多岐にわたる。それぞれが国試において頻出の部分であるため、受講後には必ずまとめ復習を行うこと。
記載日 令和5年 4月 6日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	臨床歯科医学特論(21～30 回)	講義曜日	変則	講義回数	10./30
		総時間数	20／60	単位数	4
講師名	一ノ瀬正和、藤井昌彦、遠藤佳子、 内藤章、小笠原康悦、飯久保正弘、 中澤正絵、上遠野純子、笠原江利子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	様々なライフステージの対象を理解するために必要な基本的臨床医学の知識と主要な疾患を理解する。人々の健康保持・増進における歯科衛生士の役割を理解する。				
	到達目標				
	全身の疾患に関する理解を深め、歯科衛生士として患者様を全体的に診る資質を身につける。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
21		高齢者歯科学① 田中恭恵			
22		高齢者歯科学② 田中恭恵			
23		CVA 上遠野純子			
24		パーキンソン病 上遠野純子			
25		認知症① 上遠野純子			
26		認知症② 上遠野純子			
27	11月30日 (金)①	摂食嚥下リハビリテーション① 遠藤佳子			
28	11月30日 (金)②	摂食嚥下リハビリテーション② 遠藤佳子			
29	11月30日 (金)③	摂食嚥下リハビリテーション③ 遠藤佳子			
30	11月30日 (金)④	摂食嚥下リハビリテーション④ 遠藤佳子			

講義方法 ○実践場面などの事例を紹介し、理解度を深めます。
講義で使用する機器・教材 ○パワーポイントやDVDなどを使用します。
履修上の注意事項 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること
成績評価方法 平常点、小テスト(内科学、周術期、摂食嚥下リハ他)、7月からの国試模試における主要3教科の点数を総合して評価する。
教科書 デンタルハイジーン別冊 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック(医歯薬出版株)
参考書
予習復習のアドバイス 臨床歯科医学特論の講義は、内科学をはじめ、周術期、摂食嚥下、認知症など多岐にわたる。それぞれが国試において頻出の部分であるため、受講後には必ずまとめ復習を行うこと。
記載日 令和5年4月10日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅲ－1(歯周) (前期:15回)	講義曜日		講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	歯科医師、人見早苗、若木まみ	実務経験			
講義目標	一般目標 口腔健康管理に必要な知識を総合的に学び、臨床へ応用できる実践力を身に着ける。				
	到達目標 ①歯周病の概要を理解し、その治療方法や全身疾患との関わりについて説明できる。 ②歯周病を臨床で予防することの重要性を理解し、実践できる。 ③歯周病の治療におけるメインテナンス、SPTの重要性を理解し、説明できる。 ④症例に対して問題点を抽出し、歯科衛生過程に基づき、指導計画を立て説明できる。 ⑤口腔健康管理の視点を持ち、全身の健康と口腔の健康の関わりを広義に深く考える。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月11日	歯周病概要・治療法①	11	7月4日	事例演習
2	4月13日	歯周病概要・治療法②	12	7月4日	食生活と歯科疾患①
3	4月17日	歯周病と全身疾患①	13	7月10日	食生活や生活習慣に関する事例検討
4	4月18日	歯周病の予防①	14	7月10日	食生活や生活習慣に関する事例検討
5	6月26日	メインテナンスとSPT①	15	7月18日	科目試験
6	6月26日	メインテナンスとSPT②	16		
7	6月27日	口腔健康管理と歯周病①	17		
8	6月27日	口腔健康管理と歯周病② ※期末試験範囲提示	18		
9	7月3日	プラークコントロールに関する事例検討	19		
10	7月3日	プラークコントロールに関する事例検討	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す
- ②演習:グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。
- ③発表:症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。
- ④適時、ミニテストや課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、iPad、アダプター、レーザーポインター、タイマー

履修上の注意事項

与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心を持つ。
グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、
学生の理解と協力を促す。
万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状況、学習態度 ミニテスト・課題提出状況・評価

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論 最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

参考書

最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

予習復習のアドバイス

- ①グループワークでは、それぞれの役割の責任を果たすように、深い考察と率先した発言と行動を行う。
- ②自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。

記載日 令和5 年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	後期	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科予防処置Ⅲ－2(歯周) (後期:16回)	講義曜日		講義回数	16
		総時間数	30	単位数	2
講師名	歯科医師、人見早苗、若木まみ	実務経験			
講義目標	一般目標				
	口腔健康管理に必要な知識を総合的に学び、臨床へ応用できる実践力を身に着ける。				
	到達目標				
①患者の齲蝕・歯周病発症に関わる問題点を生活習慣や食生活、全身疾患等を通して広く考察し、指導計画に反映できる。					
②国家試験の対策を踏まえ、歯科予防処置・歯科保健指導と関係した内容を改めて復讐する。					
③災害歯科保健に関する基礎知識を理解する。					
④中程度以上の歯周病における原因除去療法の実際に症例検討を通して触れることで、臨床に備える。					
⑤症例発表を体験し、歯科衛生士として学習を続ける必要性を理解する。					

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	11月6日	う蝕・歯周病の特性	11	12月11日	症例発表
2	11月6日	口腔内の情報収集	12	12月11日	症例発表
3	11月13日	災害歯科保健と歯科衛生士	13	12月18日	科目試験
4	11月13日	栄養と歯科保健指導の要点	14	1月10日	歯科予防処置
5	11月20日	摂食嚥下(国試対策)	15	1月10日	歯科予防処置 (歯周外科処置を中心に国試対策)
6	11月20日	摂食嚥下(国試対策)	16	1月16日	歯科予防処置他(国試対策・まとめ)
7	11月27日	症例検討について①	17		
8	11月27日	症例検討②	18		
9	12月4日	症例検討③	19		
10	12月4日	症例検討④	20		

講義方法

- ①講義:教科書・パワーポイントを利用し、内容の理解を促す
- ②演習:グループワークを通して司会・記録・発言者の役割を理解し討論が進みやすい配慮ができる。
- ③発表:症例に対する検討を深め、自分の考えをまとめ発表することができる。
- ④適時、ミニテストや課題を出すことがある。

講義で使用する機器・教材

PC、プロジェクター、iPad(各学生)、アダプター、レーザーポインター、タイマー

履修上の注意事項

与えられた課題に対して、クリティカルシンキングを基本とした考察と、常にエビデンスへの探求心を持つ。
グループワークについては、グループ内で役割を決めて計画的に進行するため、くれぐれも欠席が無いように、学生の理解と協力を促す。
万が一欠席があった時は、教務と相談の上対応をどのようにするか検討する。

新型コロナウイルス感染拡大の状況に合わせ、予定が変更となる場合があるので、事前に変更の有無を確認すること。

成績評価方法

科目試験、出席状況、学習態度、課題提出状況・評価

教科書

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論 歯科保健指導論、最新歯科衛生士教本 歯周病学 第2版

参考書

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 第2版

予習復習のアドバイス

- ①1, 2年で学んだことを、再度見直し反復学習する。
- ②自分の学習状況での得意、不得意な部分を把握し、国家試験の学習計画に反映する。

記載日 令和5 年 3月 31日

講義要項(シラバス)

年 度	2023年度(令和 5年度)	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科保健指導Ⅲ-1(臨床応用)	講義曜日	水木	講義回数	15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	佐藤暁子 若木まみ 人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標 対象者の口腔領域の理解と、機能の支障や疾病の回復をはかるための基礎知識を習得する。				
	到達目標 対象者のリスクや病状、心身の状況や置かれている環境を理解し支援するための知識、技術を習得する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	7月6日	禁煙指導グループディスカッション	11	9月14日	摂食嚥下リハビリテーション
2	7月6日	禁煙指導グループワーク	12	9月14日	舌接触補助床
3	7月13日	口腔健康管理 認知症	13	11月7日	生活自立度の対策
4	7月20日	口腔健康管理 脳血管障害	14	11月14日	デンチャーケア 実習室
5	8月24日	口腔健康管理 非経口摂取	15	11月14日	知覚過敏ケア 実習室
6	8月24日	食形態	16		
7	8月31日	食形態 実習 実習室	17		
8	8月31日	食形態 実習 実習室	18		
9	9月7日	口腔機能低下症 実習室	19		
10	9月7日	口腔機能低下症 実習室	20		

講義方法

座学・実習・演習・

iPadを使用した資料作成

講義で使用する機器・教材

マネキン・顎模型・歯ブラシセット・iPad

履修上の注意事項

欠席や遅刻をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう

意欲的に学んでください。

成績評価方法

筆記試験 100%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書をよく読んで 予習復習してください。

国家試験問題集を使用して復習してください。

記載日 令和 5 年 4月 3日

講義要項(シラバス)

年 度	令和 5年度	時 期	通 年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科保健指導Ⅲ-2(臨床応用)	講義曜日	火水木	講義回数	16
		総時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤暁子 若木まみ 人見早苗	実務経験			
講義目標	一般目標 対象者の口腔領域の理解と、機能の支障や疾病の回復をはかるための基礎知識を習得する。				
	到達目標 対象者のリスクや病状、心身の状況や置かれている環境を理解し支援するための知識、技術を習得する。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月4日	学校歯科保健 対象者の把握	11	6月28日	口腔ケア用品 実習室
2	4月4日	学校歯科保健 集団指導資料作成	12	6月29日	口腔ケアマネキン実習 実習室
3	4月5日	学校歯科保健 集団指導資料作成	13	6月29日	口腔ケアマネキン実習 実習室
4	4月5日	学校歯科保健 集団指導資料作成	14	7月5日	口腔ケア相互実習 実習室
5	4月7日	学校歯科保健 集団指導仮発表	15	7月5日	口腔ケア相互実習 実習室
6	4月7日	学校歯科保健 集団指導仮発表	16	7月19日	歯科保健指導Ⅲ-2まとめ
7	4月13日	学校歯科保健 集団指導資料作成	17		
8	4月13日	学校歯科保健 集団指導資料作成	18		
9	4月19日	学校歯科保健 合同発表	19		
10	4月19日	学校歯科保健 合同発表	20		

講義方法

座学、マネキンを使用した実習・演習

iPadを使用した資料作成

講義で使用する機器・教材

マネキン・顎模型・歯ブラシセット

iPad

履修上の注意事項

欠席や遅刻をせず、歯科保健指導論の基礎となる部分を身に付けられるよう

意欲的に学んでください。

成績評価方法

筆記試験 100%

教科書

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」全国歯科衛生士協議会監修

参考書**予習復習のアドバイス**

教科書をよく読んで 予習復習してください。

講義後は国家試験問題集で復習しましょう。

記載日 令和 5 年 月 日

講義要項(シラバス)

年 度	2023(令和5年)	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅲ―①	講義曜日	水木金	講義回数	10/15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。				
	到達目標				
	治療に必要な知識を習得し、治療の準備、術中の介補、術後の管理が適切にできる。患者の状態状況に応じた対応が出来る。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	4月5日	実習確認・復習(加藤礼子)	1		
2		小テスト、解説 実習の感染予防学(加藤礼子 横澤 山本) 相互実習指導	2		
3	4月6日	共同動作 実習(加藤礼子 横澤 山本) ユニット、マネキン、バキューム A班	3	左同日	B班 課題
4		共同動作 実習(加藤礼子 横澤 山本) ユニット、マネキン、バキューム B班	4		A班 課題
5	4月11日	共同動作 相互実習 A班 (加藤礼子 横澤 山本)	5	左同日	B班 課題(印象材の取り扱い)他
6		共同動作 相互実習 B班 (加藤礼子 横澤 山本)	6		A班 課題(印象材の取り扱い)他
7	4月12日	概形印象実習(全額 マネキン) (加藤礼子 横澤 山本)	7	左同日	B班 セメント練和 課題 各種セメントまとめ・他
8		概形印象実習(全額 マネキン) (加藤礼子 横澤 山本)	8		A班 セメント練和 課題 各種セメントまとめ・他
9	4月18日	保存修復の診療補助 器具材料術式 (加藤礼子 横澤 山本) A班	9	左同日	歯内療法の診療補助 器具材料術式 (加藤礼子 横澤 山本) B班
10		歯内療法の診療補助 器具材料術式 (加藤礼子 横澤 山本) B班	10		保存修復・補綴の診療補助 器具材料術式 (加藤礼子 横澤 山本) A班

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－①	講義曜日	変則	講義回数	5/15
		総時間数	30	単位数	2
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。				
	到達目標				
	治療に必要な知識を習得し、治療の準備、術中の介補、術後の管理が適切にできる。患者の状態状況に応じた対応が出来る。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
11	4月20日	保存修復の診療補助 (加藤礼子 横澤 山本)	11	左同日	保存修復の診療補助 (加藤礼子 横澤 山本)
		歯内療法 of 診療補助			歯内療法 of 診療補助
12		補綴治療 of 診療補助 (加藤礼子 横澤 山本)	12		補綴治療 of 診療補助 (加藤礼子 横澤 山本)
		外科治療 of 診療補助			外科治療 of 診療補助
13	9月8日	実技テスト A班 (加藤礼子 横澤 山本)	13	左同日	国試対策 課題 B班 加藤美智子
14		実技テスト B班 (加藤礼子 横澤 山本)	14		国試対策 課題 A班 加藤美智子
15	9月15日	筆記試験 解説 加藤美智子 実技テスト総評、まとめ (加藤礼子)	15		
16			16		
17			17		
18			18		
19			19		
20			20		

講義方法 教科書、スライド、、プリント 講義と実習
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・提出物・定期試験・身だしなみ・実技・チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論、歯科材料、歯科器械、各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書を読んで予習してください。 2年時での学習内容を確認しておいてください。
令和5年3月18日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅲ－②	講義曜日	変則	講義回数	10/16
		総時間数	30	単位数	1
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。審美歯科治療の種類や方法、カウンセリングを学び、ホワイトニング法を習得する。				
	到達目標				
	審美歯科に必要な知識を習得し、ホワイトニングの術式、特徴が説明できるようになる。また実践できる。				

回数	月 日	講義内容	回数	月 日	講義内容
1	11月8日	審美歯科の診療補助 ホワイトニング	1		審美歯科の診療補助 ホワイトニングカウンセリング実習B班 (加藤礼子)
2		審美歯科の診療補助 ホワイトニングカウンセリング実習A班(加藤美智子)	2		審美歯科の診療補助 ホワイトニングカウンセリング実習B班 (加藤礼子)
3	11月22日	カスタムトレーのための印象採得実習A (加藤美智子 横澤 山本)	3		石膏注入 (加藤礼子)
4		カスタムトレーのための印象採得実習B (加藤美智子 横澤 山本)	4		石膏注入 (加藤礼子)
5	11月29日	カスタムトレーのための印象採得実習 (加藤美智子 横澤 山本)	5		石膏模型トリミング (加藤礼子)
6		カスタムトレーのための印象採得実習 (加藤美智子 横澤 山本)	6		石膏模型トリミング (加藤礼子)
7	12月6日	ホワイトニングの測色と撮影 (加藤美智子 横澤 山本)	7		リトラクター、粘膜保護実習 (加藤礼子)
8		ホワイトニング測色と撮影 ホワイトニング相互実習説明(加藤美智子横澤山本)	8		リトラクター、粘膜保護実習 (加藤礼子)
9	12月14日	オフィスホワイトニング相互実習 (加藤美智子 横澤 山本)	9		カスタムトレー作成 プレス (加藤礼子)
10		オフィスホワイトニング相互説明 (加藤美智子 横澤 山本)	10		カスタムトレー作成 プレス (加藤礼子)

講義方法 教科書、スライド、、プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・定期試験・身だしなみ・実技・チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助、歯科材料、歯科器械、各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書を読んで予習、復習してください2年次での学習内容を確認しておいてください。
令和5年3月18日

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年	時 期	通年	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	変則		
科目名	歯科診療補助Ⅲ―②	講義曜日	変則	講義回数	6/16
		総時間数	30	単位数	1
講師名	笠原江利子 加藤美智子 加藤礼子 若木まみ 佐藤暁子 横澤由紀恵 山本麻衣子	実務経験			
講義目標	一般目標				
	歯科臨床との関連について考えることができるようになる。審美歯科治療の種類や方法、カウンセリングを学び、ホワイトニング法を習得する。				
	到達目標				
	審美歯科に必要な知識を習得し、ホワイトニングの術式、特徴が説明できるようになる。また実践できる。				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
11	12月13日	オフィスホワイトニング相互実習 (加藤美智子 横澤 山本)	11		カスタムトレー作成 プレス (加藤礼子)
12	12月13日	オフィスホワイトニング相互説明 (加藤美智子 横澤 山本)	12		カスタムトレー作成 プレス (加藤礼子)
13	12月21日	ホワイトニングの評価とメンテナンス実習 測色・撮影(加藤美智子)A班	13		ホワイトニング歯面研磨とペースト実習 (加藤礼子)B班
14		ホワイトニング経過とクリニカルポイント 測色・撮影(加藤美智子)B班	14		ホワイトニング歯面研磨とペースト実習 (加藤礼子)A班
15	1月11日	国試対策 問題 (加藤美智子)	15		
16	1月18日	国試対策解説 試験解説 まとめ (加藤美智子 加藤礼子)	16		

講義方法 教科書、スライド、、プリント
講義で使用する機器・教材 その都度連絡します。 連絡、掲示に注意してください。
履修上の注意事項 欠席、遅刻、欠課をしないように意欲的に望むこと。 実習では身だしなみを整えること。忘れ物、チェック項目により評価対象となります。 日程、時間は変更になることがあるので、連絡に注意してください。
成績評価方法 出席状況・受講態度・定期試験・身だしなみ・実技・チェック項目で総合的に評価する。
教科書 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助、歯科材料、歯科器械、各教科の教科書
参考書
予習復習のアドバイス 教科書を読んで予習、復習してください2年次での学習内容を確認しておいてください。
令和5年3月18日

講義要項（シラバス）

年 度	2023年度	時 期	通年	学 年	3
学 科	歯科衛生科	講義時間	本実習270時間		
科目名	臨地実習Ⅳ（臨床実習を含む）	講義曜日		講義回数	
		総時間数	450	単位数	10
講師名	若木まみ　加藤美智子　佐藤暁子　笠原江利子	実務経験	若木:歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 佐藤:歯科医院に歯科衛生士として7年間勤務 加藤:歯科医院に歯科衛生士として15年間勤務 笠原: 医療機関(大学病院、一般歯科)に歯科医師として17年間勤務		
講義目標	一般目標				
	2年次に習得した内容を応用し、より高度で実践的な知識や技術、協調性などを身に着ける。　現場での各ライフステージに合わせた歯科保健指導を行うことができる。				
	到達目標				
	歯科衛生士として、知識や技術、協調性などを身に着ける。医療チームの一員として多職種と協働し、連携の取れた対象者への歯科衛生を実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	本実習 450時間		
2			
3			
4			

講義方法
成績評価方法
① 実習及びセミナーへの出席状況 ②実習課題の提出状況及び内容 ③ 実習後のセミナーへの発表内容 *上記①～③を勘案し、養成施設が判定（単位認定）する。
参考書
予習復習のアドバイス

講義要項(シラバス)

年 度	令和5年度	時 期	前期	学 年	3学年
学 科	歯科衛生科	講義時間	1, 2時間目		
科目名	医療事務(歯科)	講義曜日	水	講義回数	15
		総時間数	30時間	単位数	2
講師名	星麻衣	実務経験			
講義目標	一般目標				
	円滑な歯科医院業務に貢献できるよう、社会保険制度の仕組み及び保険請求に関する基礎知識を習得する				
	到達目標				
	レセプトと保険請求の仕組みを理解し、迅速で正確な歯科請求事務能力を修得し、臨床の場に応用できる能力を身につける				

回数	月日	講義内容	回数	月日	講義内容
1	4月12日	授業ガイダンス レセプトと社会保険の仕組み	11	8月23日	レセコン(講義で実際に使用した問題を入力) 604
2	4月12日	C1、C2の治療算定(カルテ作成) 基本診療～充填	12	8月23日	レセコン(講義で実際に使用した問題を入力) 604
3	4月19日	前回復習 レセプトの作成について	13	8月30日	レセコン(講義で実際に使用した問題を入力) 604
4	4月19日	C1,C2の治療算定(カルテ、レセプト作成) 基本診療～充填、修形	14	8月30日	レセコン(講義で実際に使用した問題を入力) 604
5	6月28日	前回復習 投薬料の計算(薬剤計算)	15	9月6日 ②	評価試験
6	6月28日	C3の治療算定(カルテ、レセプト作成) Pul、Per	16		
7	7月5日	前回復習 C3の治療算定(カルテ、レセプト作成)	17		
8	7月5日	歯周疾患の治療算定(カルテ、レセプト作成) G、P	18		
9	7月12日	前回復習 G、P	19		
10	7月12日	ブリッジ、義歯の治療算定(カルテ、レセプト作成)	20		

講義方法

- ・歯科事務: 講義(必要に応じてパワポを使用しながら)
- ・レセコン: パソコン実習

講義で使用する機器・教材

- ・歯科医療事務講座テキスト1・2、点数早見表
- ・電卓

履修上の注意事項

歯科保険請求事務は、歯科衛生士と関連が深い。授業を理解するためにも欠席することの無いよう意欲的に臨んでほしい。

成績評価方法

- ・筆記試験(80%)
- ・受講態度(10%)
- ・授業課題内作成(10%)

教科書

歯科医療事務講座テキスト1, 2 ソラスト

参考書

- ・歯科診療報酬点数表

予習復習のアドバイス

- ・投薬などの薬価計算は、忘れることの無いように練習してほしい
- ・歯科点数早見表などから、素早く見つけることができるように練習してほしい

記載日 令和 5年 3月 13日